

平成 15 年度 「緑の国土軸」推進基本調査

報告書

平成 16 年 3 月

社団法人 日本公園緑地協会

目次

1 . はじめに なぜ緑地資源なのか	1
2 . 日本海国土軸の緑地資源の特性	4
2 - 1 . 日本海国土軸の地域構造の類型化.....	4
2 - 2 . 日本海国土軸の4地域の地域構造と緑地資源.....	5
2 - 3 . 日本海国土軸の各地域に共通した緑地資源の特性.....	10
(1) 雪や雨による豊富な水資源によって育まれた豊かな自然がある	10
(2) 自然環境に適応した伝統的な農林漁業が営まれている.....	11
(3) 厳しい季節風から田畑や生活を守るための工夫から生まれた緑空間がある.....	12
(4) 独自の自然環境や生業から積み重ね継承されてきた歴史文化がある	13
3 . 日本海国土軸の緑地資源を活用した地域づくり事例の特性.....	14
3 - 1 . 緑地資源毎の地域づくり事例の特徴	14
(1) 自然環境資源.....	14
(2) 産業環境資源.....	15
(3) 歴史文化資源.....	16
(4) 公共施設.....	17
3 - 2 . 地域づくり事例の特徴.....	18
(1) 大中河川 - 大平野・盆地型地域	18
(2) 中小河川 - 中平野 - 半島型地域	20
(3) 小河川 - 丘陵型地域	22
(4) 中小河川 小平野・丘陵型地域	24
(5) 各地域の地域づくり事例の相互比較	26
3 - 3 . 地域づくりの実施上の特徴.....	27
4 . 「緑の国土軸」形成に向けた今後の方向性	32
4 - 1 . 地域づくりの課題と方向性.....	33
(1) 地域性の発揮 緑地資源の保全方策の課題と方向性	33
(2) 魅力の向上 事業実施上の課題と方向性	34
(3) 組織体制の確立における課題と方向性.....	35
(4) 展開イメージ	37
4 - 2 . 「緑の国土軸」ネットワーク・コンセプトの抽出	39
(1) 脊梁山脈における地域づくりの交流による「緑の国土軸」の主骨格となるネットワーク.....	40
(2) 我が国の歴史を領導してきた古代から近世にいたる歴史文化資源の交流ネットワーク.....	41
(3) 変化に富む海岸線が形成する地域づくりネットワーク.....	42
(4) 流域圏内での共生と交流による地域づくりネットワーク	43
4 - 3 . 「緑の国土軸」イメージ形成の方向	44

付属資料

- 参考資料 日本海国土軸の緑地資源の現況把握
- 参考資料 緑地資源を活用した地域づくりの概要

1. はじめに なぜ緑地資源なのか

21世紀の国土のあり方を提言した「21世紀の国土のグランドデザイン」においては、国土の均衡ある発展から個性ある地域の振興への国土政策の転換等を背景として、地域固有の自然、歴史、文化等の資源を共有・継承し、豊かで魅力ある地域づくりを図ることが重要な課題となっている。特に、中小都市と中山間地域等を含む農山漁村等の豊かな自然環境に恵まれた地域を、21世紀の新たな生活様式を可能とする国土のフロンティアとして位置づけ、地域内外の連携を進め、都市的なサービスとゆとりある居住環境、豊かな自然を併せて享受できる誇りの持てる自立的な圏域として、「多自然居住地域」を創造することが構想されている。この「多自然居住地域」の創造による地域づくりは、有史以来日本海沿岸地域では、自然環境の開発を通じて地域形成が図られてきたことを考えると、大きな転換点を示すものである。

地域づくりにおける緑地資源の役割

日本海沿岸地域の主要な産業はその全てが各地の緑地資源をベースとして発達してきたと言っても過言ではない。農林水産業は当然のことながら、伝統産業・地場産業もまた然りである。さらには、近代工業そして現在我が国の主要な情報・サービス業の日本海沿岸地域での展開にも、緑地資源にその源流を見ることができる。例えば、秋田の精錬業、山形の繊維業、新潟の機械業・化学工業、富山のアルミニウム業・製薬業、石川・福井・丹後の繊維業、鳥取の製紙業、島根の鉄鋼業は、地域の気候風土に根ざして発展を遂げてきた。情報産業のハード部門の中心を担うIC産業の立地は、豊富な人材と良質な水が必要であり、日本海沿岸各地においても大きく進展してきた。製造業の発展過程の途上で高等教育機関が各地に整備され、地域の人材育成に貢献してきた。そして、こうした高等教育機関で育成された人材は、情報サービス産業また高度化された製造業の重要な担い手となっている。

「住んでよし、訪れてよしの国づくり」

ところで、現在国レベルの地域振興施策は、大きく構造改革特別区域制度、地域再生計画制度、観光立国の推進によって、本格的に取り組み始めている。特に、観光立国の推進においては、「住んでよし、訪れてよしの国づくり」をテーマとして、定住と交流をキーワードとした地域づくりが推奨されている。ところで、この「住んでよし、訪れてよしの国づくり」のキャッチフレーズは、ある地域で1980年代より使われてきたものである。

日本海沿岸地域では、急峻な山地と河川による災害、海岸に迫る山地による交通網の途絶、そして何よりも多雪地帯であるがゆえの幾多の労苦など、その自然環境の特質によって、大いに地域の発展に悩まされてきたのは、事実である。しかしながら、日本海沿岸地域の緑地資源そして自然環境は、これまで地域の発展に大きく寄与してきたこともまた否定できない事実である。

越後山地の中山間地域に位置する新潟県高柳町では、高度経済成長期以降加速度的な過疎化に直面し、1950年代半ばには10,000人あった人口が、現在は約2,500人まで減少した。しかし、高柳町では、若者たちが始めた自主的な活動が、町全体にも広がり、町民や専門家も参画し、町の活性化方策を検討する「ふるさと開発協議会」を形成するに至った。「ふるさと開発協議会」が1984年に策定したのが「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」ビジョンである。

「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」ビジョンにおいては、交流をキーワードとして地域振興が進められることとなり、中核となる施設整備に加え、既存の民家を活用するサテライトの整備を行うなど、新規整備だけではなく、既存の資源を活かした地域づくりが進められている。この高柳町での地域の独自の資源を活かした地域づくりが、今日脚光を浴びている。高柳町の事例は、地域住民自身が誇り

として感じるができるものが、交流の材料としても活用し得るものであることを示している。

緑地資源を活用した地域づくりへ

地域住民が誇りを持って暮らせる地域づくり、都市との交流を期待させる地域づくりが、今後の多自然居住地域を代表する日本海国土軸を形成する「緑の国土軸」に求められている。こうした地域づくりの活用対象となるのが、これまでの日本海沿岸地域の産業、生活を支えるとともに、その舞台として機能してきた各種の多様な緑地資源である。これが、「緑の国土軸」推進基本調査において、緑地資源を活用した地域づくりについて、本調査で検討する理由である。

日本海沿岸地域における「緑の国土軸」の創造においては、文化と生活様式創造の基礎的条件である気候や風土、生態系のネットワーク、海域や水系を通じた自然環境の一体性、交流の歴史的蓄積と文化遺産、さらに環日本海地域に占める地理的特性等が配慮される必要がある。特に、地域固有の自然、歴史、文化等の資源を共有・継承することが求められており、日本海沿岸地域の緑地資源の保全・保護・活用・創出等と連携した「緑の国土軸」の創造が求められる。

調査の目的

以上のように、国土の均衡ある発展から個性ある地域の振興への国土政策の転換等を背景として、地域固有の自然、歴史、文化等の資源を共有・継承し、豊かで魅力ある地域づくりを図ることが重要な課題となっている。このため、本調査においては、日本海沿岸地域の緑地資源の地域特性を把握するとともに、緑地資源を活用した地域づくりの特性を把握し、今後の日本海沿岸地域の地域づくり、「緑の国土軸」の創生における方向性を明らかにすることを目的とする。

とりわけ、緑地資源を活用した地域づくりには、森林をコアとした広大な面積を有する緑地資源を活用した地域づくりが実践されている事例、農地・農村景観の保全や伝統的な土地利用の再現などの地域づくり事例、市街地の道路における地域固有種を採用した緑化事業など小規模の緑地資源の活用(創出)事例、また様々な事業等を組み合わせた総合的な地域づくり事例、あるいは地方圏域の関係市町村が広域的に取り組んでいる地域づくりにおける緑地資源活用事例など、多様な事例が存在すると考えられる。したがって、緑地資源の概況についても幅広く対象を設定し、それらの特性を明らかにする。

調査方法

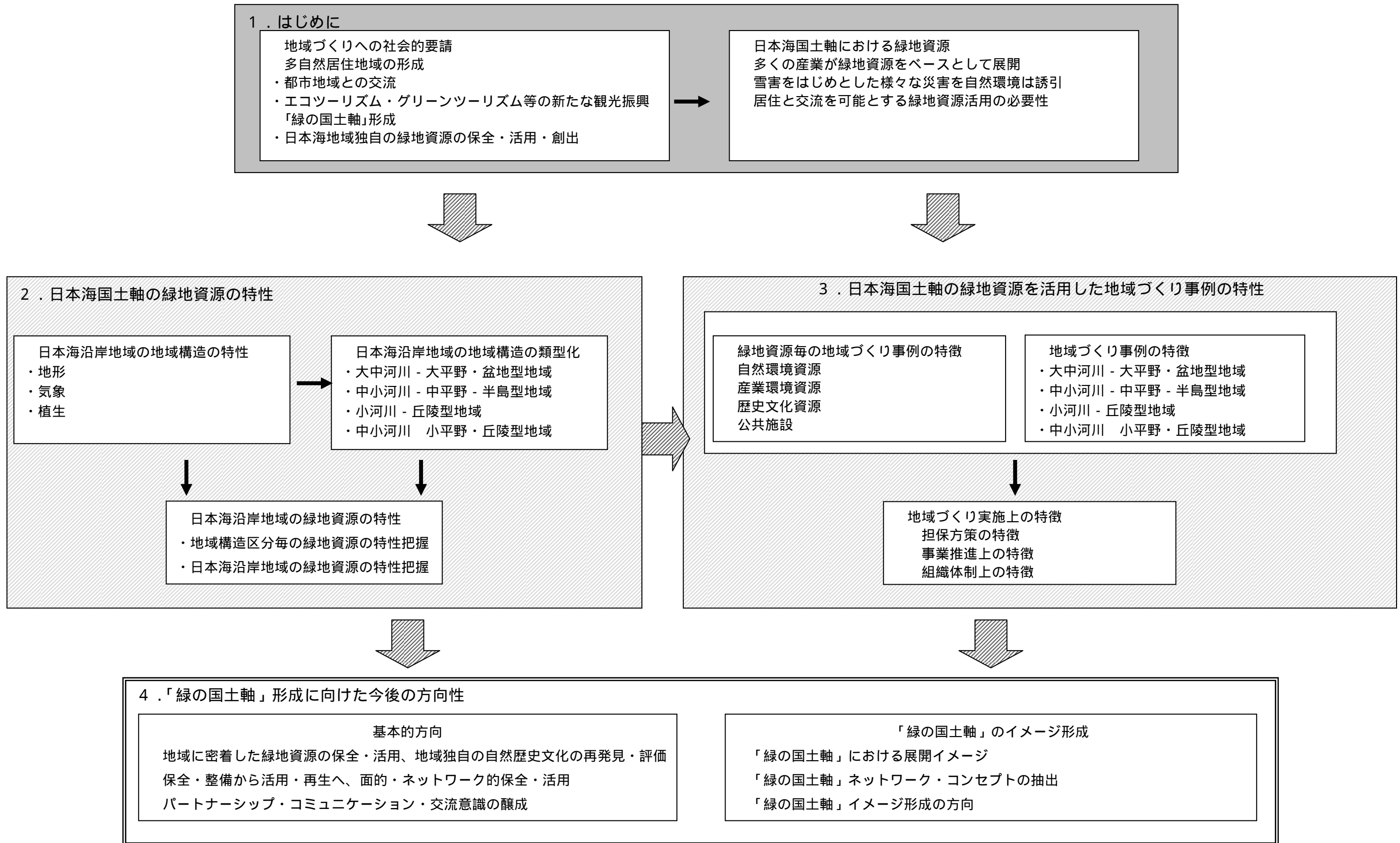
(緑地資源把握調査)

各府県の総合計画、広域生活圈計画、広域緑地計画書、観光振興計画、その他各府県の主要な歴史文化資源、レクリエーション資源、公共公益施設、景観資源を示した文献資料、地域の歴史、文化に関する関連書籍等の文献資料、各省庁が選定した各種百選資料から緑地資源を抽出する。

これらの緑地資源については、自然環境資源、産業環境資源、歴史文化資源に分類し、流域圏ごとに整理分析し、緑地資源の特性をとりまとめることとする。

(緑地資源を活用した地域づくり事例調査)

事例調査では、調査票の配布・作成を通じて各府県・市町村で実施されている地域づくり事例を収集する。調査項目は、事例名称、活用資源の種類等、背景・目的、活用状況、関係主体、特徴等とする。収集した事例については、上記緑地資源分類に公共施設を加え、緑地資源の担保状況・事業推進上の特徴・組織運営等に関する特徴等を明らかにする。



2 . 日本海国土軸の緑地資源の特性

2 - 1 . 日本海国土軸の地域構造の類型化

日本海国土軸において、緑地資源を活かした地域づくりを推進していくにあたっては、それぞれの地域の個性を大切にし、その特徴を活かしていくことが求められる。それぞれの地域のかげがえのない個性こそが、地域住民の「住みつづきたい」という誇りとなり、同時に他の地域の人々に「訪れたい」と思わせる交流の基盤となるからである。

このような地域の個性は、それぞれの地域の地形や気候、多様な緑地資源よりなる地域構造を基盤として育まれてきたものである。したがって、今後の、地域づくりの方向性を導き出すためには、このような地域構造について把握しておく必要がある。

各地域の地域構造は、それぞれの地域の地形や気候によって大きく規定されている。したがって、ここでは、日本海沿岸地域をその地形および気候に基づいて以下の4つの地域に類型化し、それぞれの地域構造の把握を行うことにする。

大中河川 - 大平野・盆地型地域 概ね青森県津軽地域・秋田県・山形県・新潟県下越・中越地域
・高い脊梁山地とそれを水源とする大規模ないし中規模の河川を有し、それらの流域に盆地と大規模な平野が広がる地域。
・気候は、山間部を中心に、降雪量が多く、冬季の期間が長い。特に新潟県は、豪雪地帯であり、梅雨季の雨量も多い。また、新潟県では、春先には、フェーン現象の影響により乾燥する。

中小河川 - 中平野 - 半島型地域 概ね新潟県上越地域・富山県・石川県・福井県嶺北地域
・高い脊梁山脈と中小の河川を有し、中規模の平野が広がる地域。
・気候は、山間部を中心に非常に降雪量が多く、豪雪地帯となっている。また、梅雨季には雨量が多く、春先には、フェーン現象の影響により乾燥する。日本海に大きく突出した能登半島では、寒暖の季節風の影響を受けやすく、季節の移り変わりが明確である。

小河川 - 丘陵型地域 概ね福井県嶺南地域・京都府丹後地域・兵庫県但馬地域
・低い山地と小河川を有し、平野部が少ない地域。山地が海に迫っており、海岸はリアス式になっている。
・気候は、比較的降雪量が多く、季節風の影響も大きい。また、梅雨季の雨も多い。

中小河川 小平野・丘陵型地域 概ね鳥取県・島根県・山口県長門地域
・低い山地と中小の河川を有し、山がちだが小規模な平野がある地域。山地が海に迫っており、海岸は、リアス式になっている部分が多い。
・気候は、鳥取県から島根県の東部にかけての地域では、若狭・丹後・但馬地域と同様、比較的降雪量が多く、季節風の影響も大きい。また、梅雨季の雨も多い。島根県西部から、山口県にかけての地域では、九州地方と同様な気候特性を示し、降雪量は比較的少ない。夏の暑さ、梅雨季・台風時の強い雨などの特徴を示す。

2 - 2 . 日本海国土軸の4地域の地域構造と緑地資源

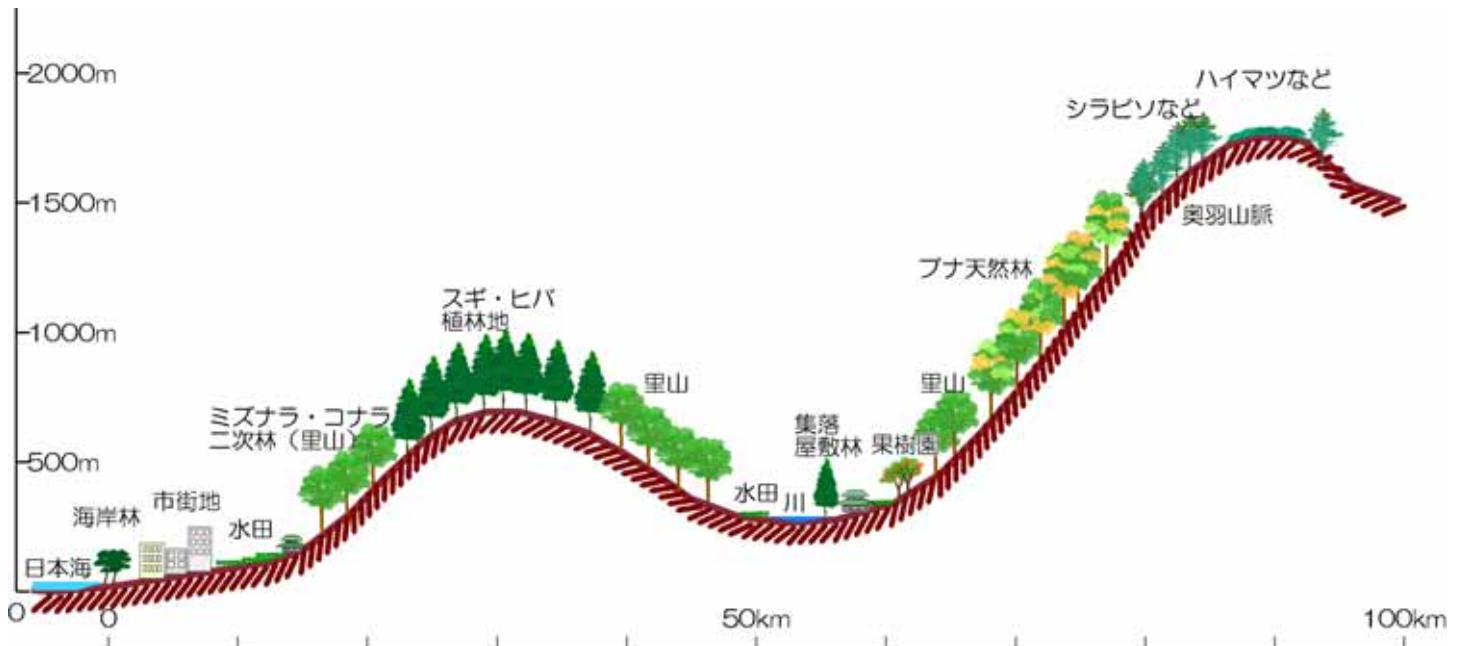
日本海沿岸域の自然環境は、各地域の地形および地理的位置に大きく規定され、それぞれの地域で異なる気候や植生の特徴を示している。ここでは、日本海国土軸地域の4地域について、地形、気候、植生、および土地利用の概略に基づいて、その自然環境の構造について述べる。

大中河川 - 大平野・盆地型地域

雪が非常に多い地域。高い山地に囲まれ、それらの山地にブナの原生林が多く残存している。河川の流域には、広い平野や盆地が形成され、主として水田として利用されている。

- ・ 脊梁山地の山頂部には、ハイマツ林、シラビソ林などの高山・亜高山帯植生や、高山植物などがみられる。
- ・ 山腹には、ブナ林を主とした多くの原生林が残存しており、多様な生物の宝庫となっている。
- ・ 青森ヒバや秋田スギなど、樹齢数百年を越える貴重な天然林施行の用材林が広く分布しており、地域独自の林業が行われている。
- ・ 山地の下部には、農村集落を取り囲むように、ミズナラ、コナラなどよりなる二次林、いわゆる里山が分布している。
- ・ 広い平野や盆地があり、水田を主とした農業が盛んである。
- ・ 砂浜海岸の沿岸部には、冬の季節風から田畑を守るために植林された海岸防風林が広く分布している。

自然環境模式イメージ：大中河川 - 大平野・盆地型地域



中小河川 - 中平野 - 半島型地域

雪が非常に多い地域。非常に高い山地を有し、それらの山腹にブナの原生林が多く残存している。山間から海岸までの距離は短く、河川は急流である。中規模の平野が形成され、主として水田として利用されている。能登半島が日本海に突出しており、丘陵状の地形を形成している。

- ・ 脊梁山地の山頂部には、ハイマツ林、シラビソ林などの高山・亜高山帯植生や、高山植物などがみられる。
- ・ 山腹には、ブナ林を主とした多くの原生林が残存しており、多様な生物の宝庫となっている。
- ・ 山地の下部には、農村集落を取り囲むように、コナラ、クリなどよりなる里山が分布している。また、能登半島などでは、アカマツの割合が高い。
- ・ 広い平野が発達しており、水田を主とした農業が盛んである。また、能登半島などの丘陵地では、棚田も多い。
- ・ 砂浜海岸の沿岸部には、冬の季節風から田畑を守るために植林された海岸防風林が分布している。
- ・ 海岸の一部には、常緑広葉樹の自然林もみられる。

自然環境模式イメージ：中小河川 - 中平野 - 半島型地域



小河川 - 丘陵型地域

雪が比較的多い地域。低い山地が海岸近くまで展開しており、丘陵状の地形をなしている。二次林や人工林よりなる里山型の自然を有し、海に迫った丘陵地には多くの棚田が残る。海岸部は、リアス式海岸となっている。

- ・ 山地の頂上など、一部に、ブナの自然林がみられる。
- ・ 山地は比較的低く、二次林化が進んでいる。二次林は、主にコナラやアカマツなどよりなる。
- ・ 平地は非常に少ない。丘陵部に、棚田が多くみられる。
- ・ 海岸部は、リアス式海岸になっており、多くの小湾や入り江を有する。
- ・ 山地が、日本海に迫っており、海と山とが一体となった地域構造を有する。

自然環境模式イメージ：小河川 - 丘陵型地域

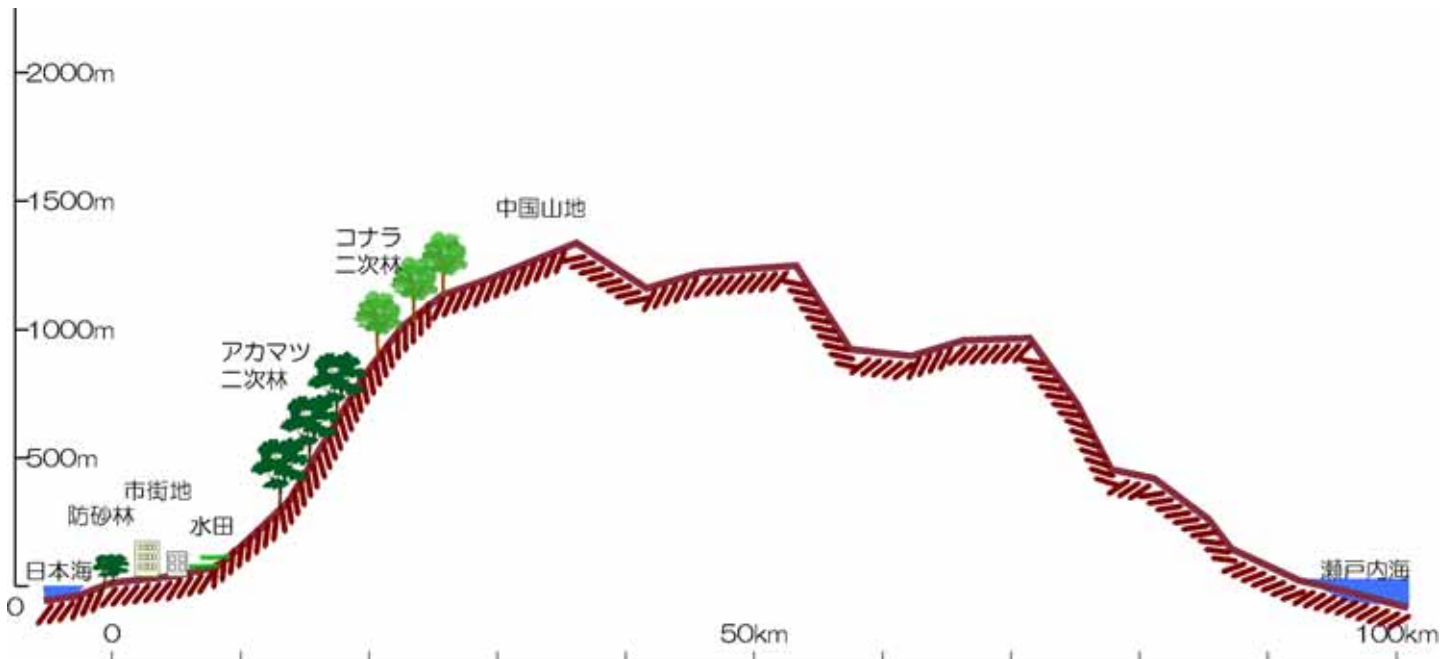


中小河川 小平野・丘陵型地域

雪が比較的多い地域。低い山地が海岸近くまで展開しており、丘陵状の地形をなしている。また、中小規模の河川の河口部には、小規模な平野が形成されている。二次林や人工林よりなる里山型の自然を有している。狭い平野では水田等が営まれ、海に迫った丘陵地には棚田が多い。

- ・ 山地の頂上など、一部に、ブナの自然林がみられる。
- ・ 山地は比較的低く、二次林化が進んでいる。二次林は、主にコナラやアカマツなどよりなる。アカマツの割合が比較的高い。
- ・ 小規模な平野があり、水田を中心とした農業が営まれている。丘陵部には、棚田が多い。
- ・ 砂浜海岸の沿岸部には、冬の季節風から田畑を守るために植林された海岸防風林が分布している。
- ・ リアス式海岸になっている箇所では、多くの小湾や入り江を有する。また、海岸部には、小島が多い。

自然環境模式イメージ：中小河川 小平野・丘陵型地域



各類型地域の緑地資源の特性

	自然					産業		歴史文化	
	原生的自然	人工林・二次林	河川・湖沼・湿地・湧水地	雪・雨	海岸	農業	その他	古代～中世	中世～近代
大 中 河 川 - 大 平 野・盆地型 地域	・奥羽山脈および越後山脈の脊梁山地と、白神山地、丁岳山地、朝日山地などに残存するブナの原生林 ・山地の山頂部に分布する高層湿原や雪田	・スギ・ヒノキの植林地が多く、青森ヒバ、秋田スギなどの地域特有の林業がある ・二次林は、ブナ・ミズナラ林の割合が高い。	・信濃川、阿賀野川、最上川などの大規模河川と、岩木川、米代川、などの中規模河川 ・豊かな水資源を背景とした、山麓の多くの湧水 ・渡り鳥の飛来地である海岸部の湖沼	・山間部には雪が多く、特に新潟県の山間部は豪雪地帯である ・海岸部では、冬季に地吹雪が発生する	・河口部の長い砂浜海岸と、山地が海に陥入している部分の岩礁海岸 ・海岸部の暖地性植生の分布	・秋田県仙北平野や山形県飯豊町や長井市の散居村 ・青森県金木町や秋田県五条目町、新潟県高柳町などの茅葺き屋根集落 ・青森県尾上町の庭と生垣の集落や、山形県金山町の切妻屋根と白壁の集落など、特徴的な集落景観 ・山形県や新潟県の河岸段丘の棚田 ・青森県鶴田町の廻堰大溜池と用水路などの用水施設	・山間の多くの鉾山跡と、新潟県の海岸部の油田 ・砂浜海岸に形成された海岸防風林	・三内丸山遺跡に代表される重要な縄文時代遺跡 ・垂柳遺跡など弥生時代の遺跡	・弘前市、秋田県角館町の城下町
中 小 河 川 - 中 平 野 - 半 島 型 地域	・飛騨山脈から両白山地にかけて残存するブナの原生林 ・山地の山頂部に分布する高層湿原や雪田	・スギ・ヒノキの植林地が多く、能登アテなどの地域特有の林業がある ・二次林は、コナラ林の割合が高い	・九頭龍川、神通川などの中規模河川と、その他の小河川 ・豊かな水資源を背景とした、山麓の多くの湧水 ・渡り鳥の飛来地である海岸部の湖沼	・多雪・多雨な地域であり、特に山間部は、有数の豪雪地帯である	・河口部の長い砂浜海岸と、山地が海に陥入している部分の岩礁海岸 ・海岸部の暖地性植生の分布	・富山県の黒部川扇状地や砺波平野の散居村 ・五箇山の合掌造り集落 ・能登半島や越前海岸の日本海に面した棚田 ・能登半島外浦地域の「間垣」 ・手取川扇状地の七ヶ用水などの用水施設	・氷見市の大敷網などの伝統的な漁業 ・砂浜海岸に形成された海岸防風林	・蓮如ゆかりの吉崎御坊など、中世の仏教文化に関わる史跡 ・一乗谷朝倉氏遺跡に代表される中世遺跡	・金沢市や大野市の城下町
小 河 川 - 丘 陵 型 地 域	・県境をなす山地の山頂部など一部に残るブナ原生林	・植生の大半は、アカマツ、コナラの二次林	・複数の小河川 ・豊かな水資源を背景とした湧水	・比較的降雪量が多く、梅雨期には雨が多い	・リアス式海岸には、天然の良港が多い。 ・海岸部の暖地性植生の分布	・丹後半島の丘陵部などに多く残る日本海に面した棚田	・丹後半島伊根町の舟屋など伝統ある漁村集落	・古くからの大陸との交流を示す丹後地方の多くの古墳 ・若狭地方に多く残る仏教史跡	・出石町の城下町
中 小 河 川 小 平 野・丘陵型 地域	・県境をなす山地の山頂部など一部に残るブナ原生林	・植生の大半は、アカマツ、コナラの二次林	・江の川、斐伊川などの中規模河川と、その他の小河川 ・渡り鳥の飛来地である海岸部の湖沼	・比較的降雪量が多く、梅雨期、台風時には雨が多い	・河口部の砂浜海岸と、山地が海に迫っているリアス式海岸 ・海岸部の暖地性植生の分布	・島根県や山口県の丘陵地帯に多く残る日本海に面した棚田 ・島根県出雲平野の築地松の散居村	・山地部に残る鉾山跡 ・東郷湖や宍道湖のシジミ漁、鳥取市湖山池の石がま漁、江の川や高津川の鮎漁など独特の内水面漁業 ・砂浜海岸に形成された海岸防風林	・古代出雲神話に関わる弥生時代・古墳時代の遺跡	・津和野町や萩市の城下町 ・萩市を中心に残る明治維新ゆかりの史跡

2 - 3 . 日本海国土軸の各地域に共通した緑地資源の特性

日本海国土軸の緑地資源は、日本海の対島暖流と脊梁となる山地、大陸からの季節風に大きく規定されている。これらの条件によってもたらされる雪や雨によって育まれた自然の恵みを利用し、時には厳しい雪や季節風と折り合いをつけながら人々の暮らしは営まれてきた。このような自然と共生する営みが継続されている点に日本海国土軸の緑地資源の特徴がある。また、「各類型地域の緑地資源の特性」に示したように、これらの営みは、地域によって異なる特徴を示し、「そこにしかない」緑地資源となっている。以下に、日本海国土軸の各類型地域に共通した緑地資源の特性について述べる。

(1) 雪や雨による豊富な水資源によって育まれた豊かな自然がある

- ・東北から北陸地方にかけての高い山地を中心として、豊かなブナ原生林の森が残存している。
- ・一方近畿から中国地方にかけては、人の営みのなかで形成されてきた里山型の森林が主体である。
- ・ユキツバキなどの、雪の環境に適応した日本海植物が分布している。
- ・豊富な伏流水によって、多くの湧水が湧き出している。
- ・全域の海岸には渡り鳥飛来地の湖沼や潟湖が、東北～北陸地方の山岳部には高層湿原がみられる。



(2) 自然環境に適応した伝統的な農林漁業が営まれている

- ・スギ・ヒノキの林業が盛んであり、各地域において、青森ヒバ、秋田スギ、金山スギ、能登アテ、智頭スギなど、特有の伝統的な林業が営まれている。
- ・東北地方や北陸地方に、それぞれ特徴のある歴史的な農業用水路がみられる。
- ・自然に適応した棚田が多く残っており、東北・新潟地方では河岸段丘地帯に、若狭～但馬地域、山陰地域では、日本海に面した丘陵部に棚田が多い。
- ・良質な水環境を背景とした伝統的な漁業が盛んであり、北陸地方においては、大敷網などの伝統的な沿岸漁業、山陰地方においては、河川や湖沼における伝統漁業が盛んである。



(3) 厳しい季節風から田畑や生活を守るための工夫から生まれた緑空間がある

- ・屋敷林を配した散居村が多く、これらの散居村は、それぞれの地域で屋敷林の向きや構成樹種などに異なった特徴を持つ。
- ・また、防風の方法として、能登半島では、独特の防風垣根がみられる。
- ・砂浜海岸のある地域では、海岸防風林が形成されている。



(4) 独自の自然環境や生業から積み重ね継承されてきた歴史文化がある

- ・茅葺き屋根の農山村が多く残っており、地域によって特徴的な形状をもつ。
- ・丹後半島の伊根町の舟屋をはじめとして、特徴的な漁村集落が残っている。
- ・全域にわたって近世の城下町や宿場町、北前舟の港町の街並みが残存している。
- ・東北・新潟地方においては縄文・弥生時代の古代遺跡。
- ・北陸地方においては中世の城館跡や仏教史跡。
- ・若狭～但馬地方においては古墳や仏教寺院。
- ・山陰地方においては、古代出雲時代の遺跡や明治維新の史跡。



3．日本海国土軸の緑地資源を活用した地域づくり事例の特性

3 - 1．緑地資源毎の地域づくり事例の特徴

(1) 自然環境資源

- ・自然度が高い原生林等の資源を活用した地域づくり事例においては、従来の施設型レクリエーションから、ブナ林をはじめとする自然の保全型活動へと転換するとともに、原生林地域と連携したエコ・グリーンツーリズムが推進されている。
- ・鳥類の保護・育成やため池・河川における希少動物の保護を通じて、地域の自然環境全体を保全・再生する取り組みが行政・専門家・地域住民等の連携により進められている。
- ・森林里山では、従来までのレクリエーション施設を中心とした活用に加え、自然体験を中心とした活用が増加している。特に、自然体験を中心とした森林里山活用においては、里山林の保全・再生の取り組みや、NPO やボランティア等の運営管理への参画が特徴となっている。
- ・河川・砂防区域を活用した地域づくりでは、防災工事とあわせ上流域におけるレクリエーション施設整備が取り組まれ、流域全体での特色ある取り組み(カヌー利用や桜の植栽)が進められている。
- ・湖沼や湿地については、自然公園・都市公園等によって保全され、地域住民、専門家等の参画を得た湖沼の再生が進められている。
- ・地域の歴史風土を象徴する海岸林では、地域全体での保全活動が取り組まれている。
- ・風力発電や太陽光発電など自然エネルギーの活用による環境負荷軽減の取り組みが進展している。

資源	地域づくりのタイプ	地域づくりの特徴
原生林	保全活動をコアとした地域づくり	・原生林の保全活動を通じた地域づくり
	原生林を活用した地域づくり	・原生林地域と連携したエコ・グリーンツーリズムの推進 ・施設型レクリエーションからの転換
希少動植物	鳥類の保護・育成を通じた地域づくり	・トキやコウノトリなど保護を通じた地域づくり
	里地・農地等における希少種の発見と保護を通じた地域づくり	・ため池、河川における希少動物の保護 ・地域住民との連携による保護・保全の取り組み
森林里山	自然体験を中心とした森林里山活用による地域づくり	・自然体験プログラムの充実 ・里山林の保全・再生 ・NPO 法人や県民ボランティアによる運営管理 ・民間による施設整備 ・森林所有者と県の協定による整備・活用
	レクリエーション施設を中心とした活用による地域づくり	・レクリエーション施設の整備による森林の活用 ・家族旅行者等を対象とした施設整備
雪	雪を活用した地域づくり	・雪及び雪国の生活・産業・文化の活用
花と緑	花と緑による広域的な緑化活動による地域づくり	・花と緑による特色ある広域的な景観づくり(巨木・自生サクラ等)
河川	河川・砂防区域を活用した地域づくり	・砂防事業等と連携した上流域におけるレクリエーション施設整備
	水辺の楽校事業を活用した地域づくり	・自然再生・親水施設整備による体験学習等での活用
	流域全体での特色ある取り組み	・広域的なカヌー利用、サクラ植樹等での活用 ・アドプト制度による維持管理 ・広域的再生プランの検討
湖沼・湿地	湖沼を活用した地域づくり	・自然公園・都市公園等による湖沼の保全 ・地域住民、専門家等の参画を得た湖沼の再生
海岸林	海岸林を活用した地域づくり	・歴史風土を象徴する海岸林の地域全体での保全
海岸	海岸を活用した地域づくり	・島外ボランティアを含めた海岸保全活動 ・ヒスイを活用した施設整備 ・広域的写真コンテスト
その他	自然エネルギーを活用した地域づくり	・自然エネルギーの活用による環境負荷軽減の取り組み

(2) 産業環境資源

- ・生産林においては、都市住民の積極的な関わりによるオーナー制度の導入、森林ボランティアの育成を通じた森林管理が推進され、漁業関係者をはじめとした流域関係者の参加、上流域自治体と下流域自治体の連携が進んでいる。また、廃材・間伐材の利用が進められるとともに、地元特産林産物の普及が進められている。
- ・地元農家等による維持管理運営組織の設立、オーナー制度の導入やボランティア人材育成などを通じて棚田の保全・交流が進められている。
- ・農村集落においては、田園空間整備事業が推進されており、住民参加による計画検討、NPO 法人等による施設運営、景観保全のための助成事業の実施や条例の制定、伝統保全技術の継承などが実施されている。
- ・グリーンツーリズムの推進のため、遊休農地の活用や構造改革特別区域制度によって市民農園の開設が進められるとともに、県域・広域レベルでの支援活動が展開されている。
- ・その他、ほ場整備を通じた希少動植物の保護、用水施設を活用した発電事業が実施されるとともに、地域の資源を再認識するためのイベントが広く開催されている。

資源	地域づくりのタイプ	地域づくりの特徴
林業 関連	森林オーナー制度を導入した地域づくり	・オーナー制度の導入による森林管理の推進と都市住民との交流
	森林ボランティアを通じた地域づくり	・森林ボランティアの育成 ・森林ボランティア・ネットワークにおける都市住民の積極関与
	流域全体を対象とした森林再生による地域づくり	・漁業関係者をはじめとした流域関係者の参加 ・上流域自治体と下流域自治体の連携
	林産物を活用した地域づくり	・廃材による発電による環境負荷軽減と経営の効率化 ・間伐材利用による経済開発 ・地元特産物の普及
農業 関連	田園空間整備事業による農村景観の保全・活用の地域づくり	・住民参加による計画検討 ・NPO法人等による施設運営 ・景観保全のための助成事業や条例制定、伝統保全技術の継承
	棚田を活用した地域づくり	・地元農家等による維持管理運営組織の設立 ・棚田オーナー制度の導入 ・棚田ボランティア人材育成 ・伝統文化としての国際交流
	グリーンツーリズムを活用した地域づくり	・遊休農地の活用 ・構造改革特別区域制度による市民農園の開設 ・県域・広域レベルでの支援活動
	農業公園等を活用した地域づくり	・地域住民、利用者等の参画による計画検討・運営
	農地・農業関連施設等を活用した地域づくり	・ほ場整備における希少種の保護 ・用水施設を活用した発電事業
	農地・農村のソフト活用による地域づくり	・地域の資源を再認識するためのイベントの開催

(3) 歴史文化資源

- ・古墳や建造物の遺構は、都市公園等において保全され、地域のその他の歴史文化資源と一体となった保存・活用が進められている。
- ・重要伝統的建造物群保存地区では、建造物の活用を中心とした多様な取り組みが実施されており、歴史遺産の保全から観光振興への展開を目指した取り組みが繰り広げられている。
- ・地域の歴史文化資源を再評価し、これらの資産を活かした住民に密着した地域づくりが、自治体独自の条例制定等の施策展開を通じて、進められている。
- ・近代土木遺産を復元し、これらを活用した都市公園等の整備が進められている。
- ・海峡をまたぐ景観形成を推進するために、県域を越えた同一条例が制定されるなど広域的な取り組みがみられる。

資源	地域づくりのタイプ	地域づくりの特徴
古代・中世	古墳を活用した地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳の都市公園における保全 ・地域の歴史文化資源と一体となった保全・活用構想
	建造物遺跡等を活用した地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園としての整備 ・地元住民の積極的な活動
近世	重要伝統的建造物群保存地区における地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・指定地区をコアとした多様な取り組み ・歴史遺産の保全から、観光振興への展開
	自治体独自施策による歴史文化資源を活用した地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の再評価による地域づくりの推進 ・自治体独自の条例制定等の施策展開 ・地域住民に密着した取り組み
近現代	近現代の歴史文化資源を活用した地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・近代土木遺産の復元・活用による都市公園等の整備 ・海峡をまたぐ景観形成の推進（同一条例の制定）

(4) 公共施設

- ・道路では、花と緑などのテーマを設定した道路の緑化やツーリズムロードマップの作成・配布などの取り組みとともに、アドプト制度に基づく地域住民等による道路の維持管理が進展している。
- ・市街地の河川等では、親水護岸等の整備、市街地における斜面地の安全確保と緑地整備が行われるとともに、隣接する都市公園や学校等の利用を促進する親水施設整備が進められている。
- ・都市公園については、レクリエーションのための都市公園整備が引き続き進められるとともに、公園内の施設・資源を活用した特色ある取り組みが進められている。(公園内果樹を活用したノーマライゼーションの推進、都市緑化植物園・体験学習施設等の整備、市民による公園内への環境に配慮した植樹など)
- ・港湾施設では、周辺海洋レクリエーション施設と連携した緑地整備や、景観形成に資する交流施設整備が実施されている。また漁港等の施設では、レクリエーション施設としての活用が図られている。
- ・その他、地域を象徴する特色ある研究・交流拠点施設の整備や学校林の整備が進められている。

資源	地域づくりのタイプ	地域づくりの特徴
道路	花と緑などテーマ設定による道づくり	・草花による道路の緑化 ・ツーリズムロードマップの作成・配布
	アドプト制度を活用した道路の維持管理	・アドプト制度に基づく地域住民等による道路の維持管理
河川	防災事業等を活用した親水施設等の整備による地域づくり	・市街地における親水護岸等の整備 ・市街地における斜面地の安全確保と緑地整備
	周辺施設と一体化した河川整備を通じた地域づくり	・都市公園との一体的な整備 ・学校等の利用を促進する親水施設整備
都市公園	地域の基幹的な都市公園の整備を通じた地域づくり	・広域的なレクリエーションのための都市公園整備
	都市公園内の施設を活用した地域づくり	・公園内果樹を活用したノーマライゼーションの推進 ・都市緑化植物園、体験学習施設等の整備 ・市民による公園内への環境に配慮した植樹
港湾・漁港	港湾施設の再整備を通じた地域づくり	・港湾緑地の創出 ・周辺海洋レクリエーション施設と連携した緑地整備 ・港湾景観形成に資する交流施設整備
	漁港施設等を活用した地域づくり	・漁港施設からレクリエーション施設への展開 ・離島への架橋を契機とした施設整備
その他	研究施設・学校等と連携した地域づくり	・地域を象徴する特色ある研究・交流拠点施設の整備 ・学校林の整備

3 - 2 . 地域づくり事例の特徴

他の3地区全てに共通していない特徴的な事例を抽出し、各地域での地域づくりの特徴を明らかにする。

(1) 大中河川 - 大平野・盆地型地域

自然環境資源

(原生的な自然の活用)

- ・原生的な自然が山地部に広く存在する当地域においては、「森吉山の自然再生を通じた広域的な地域づくり」(秋田県)や「世界自然遺産白神山地を活用した白神・ツーリズム」(青森県)などの自然再生と体験型プログラムの実施など、自然再生と保全をベースとした取り組みが実施されている。



(希少動物の保護から地域の自然再生へ)

- ・天然記念物トキの保護育成は、地域全体の環境保全の取り組みへと展開しており、「佐渡市 トキのふる里再生事業」(新潟県)が進められている。



(大河川流域全体での取り組み)

- ・「雄物川カヌー観光交流推進事業」(秋田県)、「美しい山形・最上川100年プランにおける「最上川夢の桜街道」構想」・「巨木の里最上」づくり」・「河川アダプト導入モデル事業」(山形県)など、地域を貫流する大河川流域全体での取り組みが実施されている点が、特徴として指摘できる。



(生活を苦しめてきた雪の活用)

- ・豪雪地帯で雪害に大きく悩んできた地域であるが、「安塚町 雪を資源とするまちづくり」(新潟県)においては、雪と雪国の文化を積極的に活用した地域づくりが進められている。



(海岸林の新たな維持管理)

- ・砂浜海岸と砂防林が広がる当地域で新しい維持管理のあり方として、地域住民・専門家等の参画を得た「能代海岸砂防林「風の松原」の保全・活用」(秋田県)や「庄内砂丘クロマツ海岸砂防林の保全・活用」(山形県)が進められている。



産業環境資源

(豊富な森林資源の活用)

- ・スギ・ヒノキの植林地帯を有しており、広葉樹林を含めこれらの森林の保全のため、「雄物川流域圏 緑のパートナー推進事業」(秋田県)、「企業による森林づくり」・「森林オーナー制度」(山形県)など、都市住民等との交流による森林の保全・再生が進められている。また循環型地域社会の形成の観点から、廃材を活用した「能代市 木質バイオマス発電事業」(秋田県)が進められている。



(田園空間整備事業の積極展開)

- ・比較的規模が大きい平野が広がる地域では、地域の各種緑地資源を活用した田園空間整備事業が各地で取り組まれており、地域住民等の参画を得て事業が推進されている。また、一部では、NPO法人の積極的な関わりが見られる。



歴史文化資源

(古代遺跡の積極活用)

- ・青森県を中心として縄文・弥生時代の重要な遺跡が存在しており、「青森総合運動公園再整備における三内丸山遺跡の保全」や「田園空間整備事業 垂柳猿賀地区」(青森県)において遺跡の活用や復元が試みられている。



(地域全体での歴史的景観の保全・活用)

- ・「角館町 武家屋敷をコアとした周辺地域の保全」(秋田県)では、建造物の保全から観光振興へと取り組みが展開しており、「金山町 金山型住宅をコアとした街並み(景観)づくり 100年運動」(山形県)や「出雲崎町 海岸地区における妻入りの街並み保全」(新潟県)では、自治体独自の施策による地域住民に密着した伝統的景観の保全が進められている。



公共施設

(特色ある公共施設の整備・活用)

- ・特徴的な公共施設の事例としては、周辺海岸林と一体化した「能代市 能代港中島地区における緑地整備」や、都市公園内の果樹を活用した「ノーマライゼーションを推進する金山町 最上川ふるさと総合公園 果樹活用事業」や地場産業研究施設を活用した「新庄市 エコロジーガーデン整備事業」が挙げられる。



(2) 中小河川 - 中平野 - 半島型地域

自然環境資源

(雄大な自然の活用)

- ・北アルプスをはじめ急峻な山岳地帯が背後に控えるこの地域では、原生的な自然やそこでの森林文化を体験し、学ぶための「有峰森林文化村推進事業による地域づくり」(富山県)が進められるとともに、「イヌワシとの共生推進事業」・「雷鳥保護対策事業」などの希少動物保護の取り組みが継続的に実施されている。



(身近な環境での希少動物の保護)

- ・「氷見市 イタセンパラの保護増殖事業」・「氷見市 希少トンボの保護育成に向けたため池等周辺的环境保全」(富山県)・「武生市 武生市西部地域における地域と連携した里地希少生物保全」(福井県)など、地域の中小河川・ため池等での希少動物の保全の取り組みが、地域住民等との連携の下に進められている。また、農業関連施設整備の際にも、「希少種保護に配慮した末吉地区県営ほ場整備事業」・「野鳥の保護・観察のための農村環境整備事業における農村公園整備」・「木場町 木場渦水と緑のふれあいパークの整備」(石川県)が実施されるなど、農業関連施設を活用した希少動物保全や地域全体の環境保全に配慮した取り組みが、当地域の特徴のひとつである。



産業環境資源

(流域全体での森林里山の保全)

- ・比較的森林と海岸地域が近接するため、「森とまち・海をつなぐ交流支援事業」(富山県)や「豊かな海の森林づくり」(福井県)などいわゆる漁民の森づくりが推進されるとともに、森林ボランティアの草分けである「草刈十字軍」の活動は、「森林サポーター養成支援活動」・「とやま森林と人ネットワーク」(富山県)や「ボランティアによる里山の森林づくり」(福井県)へ、さらには都市近郊での「里山オーナー制度事業」(石川県)へと展開している。



(伝統的農村景観の保全)

- ・砺波平野では、氷見市地域・奥能登地域と同様に「田園空間整備事業」が展開されているが、屋敷林(カイニヨ)と伝統的家屋を対象とした協定による助成制度・融資制度等の県独自の保全施策が実施されることにより、民有資源の担保性を高めている。



(農業関連施設の積極活用)

- ・急峻な山岳から流れる河川から用水を引くことで、当地域の稲作は成立している。これらの用水施設は、地域の特徴的な緑地資源であり、「県営かんがい排水事業による農業用小水力発電事業の推進」(富山県)が取り組まれ、また「手取川七ヶ用水ウオークラリー」(石川県)など地域の資源を再評価するイベントなどが開催されている。



歴史文化資源

(中世から戦国期にかけての遺跡の保全)

- ・北陸地方には、中世から戦国期にかけての遺跡が多数存在する。「鹿島町 能登歴史公園整備による寺院跡等の遺構の保全」(石川県)や「福井市 一乗谷朝倉氏遺跡の発掘整備と活用」(福井県)などの地域づくりが進められており、特に後者においては地元保存会による活動が活発である。



(近世街並みの保全と近代遺産の復元)

- ・富山県において「富山市 近代土木遺産開門の復元を通じた都市公園整備」において、昭和9年に整備された運河の保全再生計画が策定され、開門施設の復元が実施されるとともに、国指定重要文化財となった中島開門をはじめとして様々な近代土木遺産が都市公園等において活用されている。



公共施設

(漁港施設のレクリエーション活用)

- ・富山県では、「富山市 水橋地区ふれあい漁港漁村整備計画」「氷見市 氷見地区ふれあい漁港漁村整備計画」において、良好な景観形成に配慮した漁港漁村づくりを推進するとともに、海洋性レクリエーションの促進により、漁村の振興を図っている。



(3) 小河川 - 丘陵型地域

自然環境資源

(二次林の再生)

- ・京都府地域及び兵庫県但馬地域においては、天然林の状態に近いブナの二次林などが高原地帯に存在している。これらの原生的な自然を再生・保全する取り組みが、「丹後半島内山ブナ林の再生による地域づくり」(京都府)・「上山高原エコミュージアム構想による地域づくり」(兵庫県)において本格化している。



(希少動物の保護から地域の自然再生へ・身近な環境での希少動物の保護)

- ・兵庫県但馬地域豊岡盆地では、県によるコウノトリの野生復帰計画と連携し、「コウノトリと共生する地域づくりの推進」プロジェクトが取り組まれ、里山や農地・河川の自然再生が、地域住民組織を先頭とした各種団体の参画により、地域全体で取り組まれている。



産業環境資源

(地域全体での森林里山の保全)

- ・京都府宮津市の「府立丹後海と星の見える丘公園(仮称)」区域においては、事業着手と同時並行的に、開設後の維持管理体制構築の前段階プロセスとして、当該区域を対象とした、「宮津市 地球デザインスクール」の取り組みが展開され、里山保全活動がボランティア等を通じて実施されている。



(グリーンツーリズムの進展)

- ・兵庫県但馬地域は、日本海沿岸地域の中では比較的大都市圏に近いいため、特区制度の活用も含め市民農園や棚田を活用したグリーンツーリズムが積極的に推進されている。「八鹿町 棚田保全事業(高柳下地区)」では、県が全域で行っている「棚田ボランティアの育成事業」によるボランティアとともに、棚田保全活動を実施している。



(漁業・海岸資源の活用)

- ・山陰海岸は、国立公園区域に指定されているとともに、本年度世界自然遺産の国内候補地に選定された地域である。当地域では、北但馬地域及び鳥取県東部(因幡)地域を対象とした広域写真コンテストが「山陰海岸「私のお薦めビューポイント」の選定」事業として、観光組合連盟を中心に取り組まれ、地域づくりが活性化している。



歴史文化資源

(重要伝統的建造物群保存地区における総合的地域づくり)

- ・福井県若狭地域の京都へ至る鯖街道に立地する熊川宿では、「上中町熊川宿の歴史的町並みを活かしたまちづくり」において、重要伝統的建造物群保存地区を中心とした街並みの保全及び復元の取り組みが進められている。



(自治体独自の街並み保全施策)

- ・兵庫県では、全国に先駆けて県独自の景観形成条例を昭和 60 年に制定し、「県条例による景観形成地区指定を通じたまちづくり」を進めている。但馬地域では、現在 5 地区が景観形成地区に指定されている。この内比較的近年に指定された「生野町口銀谷」地区では、指定プロセスにおいて地域住民団体が結成され、積極的な活動を展開している。



(4) 中小河川 小平野・丘陵型地域

自然環境資源

(都市公園の開設による野鳥の保護)

- ・「米子市 米子水鳥公園整備による渡り鳥の保護育成(鳥取県)では、干拓工事によって失われてきた湿地を水鳥の生息環境として保全する必要があるとの市民要望を受けて都市公園が整備され、中海のラムサール条約への登録や、野生鳥類に関する調査研究などが進められている。



(身近な環境での希少動物の保護)

- ・鳥取県には、海岸に比較的隣接した区域に、湖沼が多くある。これらの湖沼は、市民の憩いの場となるとともに、希少な動物の生息地になっている。このうち「鳥取市 湖山池再生に向けた池づくりの推進」では、地域住民及び専門家を含めた湖再生の取り組みが本格化し、伝統的な漁法を継承する試みが実践されている。



- ・同様に、山口県では天然記念物のゲンジボタルの保護育成に向けて、「豊田町 ほたる飛び交うきららかな川づくり調査事業」において、多自然型の工法による改修とモニタリング調査が実施されている。



産業環境資源

(地域全体での森林里山の保全)

- ・山陰地方は、降雪量の多い地域とはいえ、日本海北部地域ほどの降雪量はない。このため、都市部では、水源林の涵養が進められている。鳥取県日野川流域とともに、島根県斐伊川流域では、上下流自治体が森林協定を結ぶなど連携して、「斐伊川水系水源の森づくり」を進めている。



(自治体独自の街並み保全施策)

- ・出雲平野では、「田園空間整備事業 いずも地区」が推進され、各種の農業関連資源の活用が進められている。この中のサテライトのひとつとなっている築地松集落においては、県独自の「築地松景観保全整備事業」が進められ、助成等の事業のほか、伝統的管理技術の継承を含めた取り組みが進められている。



(グリーンツーリズムの進展)

- ・山陰地域の西部地域は、海岸部に平野が極めて限られており、中世以来棚田が開発されてきた。「棚田地域等緊急保全対策事業 大井谷地区」(島根県)では、行政施策に加え、地元住民組織が中心となった棚田保全の取り組みが繰り広げられている。また、山口県では「2003地球環境米米フォーラム in 北長門」が開催され、棚田文化による国際交流の取り組みが推進されている。



歴史文化資源

(重要伝統的建造物群保存地区における総合的地域づくり)

- ・山口県萩市には、明治維新に縁のある建造物が多数残されている。萩市は、伝統的歴史景観保全に向けての取り組みを、昭和40年代より国に先駆けて推進した。現在では、伝統的な建造物の保全に留まらず、観光振興を含めた積極的な地域づくりを実施している。



(県域を超えた景観形成の取り組み)

- ・山口県下関市では、関門海峡を隔てた北九州市との連携により、同一条文からなる関門景観条例を制定し、緑地資源や建造物などによって構成された一帯の景観形成の取り組みを進めている。



(5) 各地域の地域づくり事例の相互比較

	大中河川 - 大平野・盆地型地域	中小河川 - 中平野 - 半島型地域	小河川 - 丘陵型地域	中小河川 小平野・丘陵型地域
自然環境	<p>原生的自然を多様な農業と結合</p> <p>災害との対応の中で形成された緑地資源</p> <p>流域毎の多様な河川の活用</p> <p>希少種保護から身近な自然環境の再生へ</p>	<p>雄大な自然環境との共生</p> <p>災害との対応の中で形成された緑地資源</p> <p>身近な環境での希少動物の保護</p>	<p>一部に残る原生的自然の保全</p> <p>希少種保護から身近な自然環境の再生へ</p> <p>地域全体での取り組み</p> <p>NPOなどの積極的な参画</p>	<p>湖沼・湿地など特徴的な自然環境の保全</p> <p>身近な環境での希少動物の保護</p> <p>NPOなどの積極的な参画</p>
産業	<p>農業関連施設と一体となった農村景観の保全と活用</p> <p>多様な森林・木材利用</p> <p>海岸林の新たな利用と維持管理のあり方を追求</p>	<p>流域全体での多様な手法による森林里山の保全</p> <p>地形・気象条件から生み出された散居村景観保全</p> <p>農業関連施設への誇りと積極的な活用</p> <p>特徴的な海岸景観及び漁業資源の活用</p>	<p>流域全体での多様な手法による森林里山の保全</p> <p>市民農園などの積極的なグリーンツーリズムの取り組み</p> <p>ボランティア育成や交流の推進</p> <p>特徴的な海岸景観及び漁業資源の活用</p>	<p>流域全体での多様な手法による森林里山の保全</p> <p>風と波がつくりだした散居村景観保全</p> <p>伝統的な内水面漁業の継承・活用</p> <p>特徴的な海岸景観及び漁業資源の活用</p>
歴史文化	<p>北日本の独自文化を形成した縄文・弥生文化遺跡、中世遺跡の保全・活用</p> <p>遺産保護から観光振興への展開</p>	<p>伝統的森林文化を伝える茅葺集落の保全・活用</p> <p>中世から近世にかけての仏教関連史跡の活用</p>	<p>コンパクトな形態で受け継がれてきた伝統的集落景観の面的な保全・再生</p> <p>自治体独自の保全・創出施策の充実</p>	<p>古墳時代と明治維新に由来する著名な歴史遺産の積極活用</p> <p>遺産保護から観光振興への展開</p>



キーワード	大河川が織り成すネットワークを活かした地域づくり	山岳から海へ、そして半島また海へのダイナミックな地域づくり	コンパクトな流域で歴史が重ねられ多様な生き物と共生する地域づくり	なだらかな山地、風そして海流が生み出した地域づくり
-------	--------------------------	-------------------------------	----------------------------------	---------------------------



雪や雨による豊富な水資源によって育まれた緑地資源	雪害をはじめ幾多の災害を乗り越えて形成されてきた緑地資源
脊梁山脈と海岸線が形成する自然軸がつくりだした生活文化	独自の自然環境や生業から積み重ね継承されてきた歴史文化

3 - 3 . 地域づくりの実施上の特徴

(1) 保全担保状況の特徴

- ・希少動植物の生息地ともなる農地・里山地域、湖沼・湿地周辺等においては、法的な担保度が低いケースがあり、希少動植物等の保護のための担保方策の検討が必要となる。
- ・法的な担保性が比較的低い農地・里山地域等においては、これらの地域の緑地資源が生産活動や生活様式と不可分な形で当該資源が維持されてきたことを考えると、支援策・活用策と一体となった、担保方策の検討が必要である。
- ・伝統的な街並みなどの歴史文化資源については、自治体において緑地保全地区や条例が活用され、周辺地域を含めた伝統的街並みの法的担保性が高められている。

本調査で分析の対象とした事例は、概ね行政が事業の中心主体となっているケースが多いため、各緑地資源の担保性は高いものとなっている。このため、本項においては、担保性に課題がある資源を中心に特徴を明らかにする。

自然環境資源

身近な環境における希少動植物

昆虫類・魚類等の希少動植物の生息空間としては、河川区域の場合は担保度は高いが、農村地域のため池等の場合は私有地（入会地）等であるケースもあり、担保度は低くなると考えられる。また、権原上の担保ではなく、機能上の担保性を考慮すると、河川・湖沼区域や農地・里山地域の場合、周辺土地利用の変化（遊休農地化、農地転用、ほ場整備）の影響を極めて受けやすいと考えられる。本調査で取りあげた湖沼・湿地の活用事例では、自然公園・都市公園等の区域内にあるため法的な担保度は高いが、機能上の担保性については、周辺土地利用の変化の影響を受けやすい。

産業環境資源

市民農園・棚田等の農地

市民農園についても、市民農園整備促進法、特定農地貸付法、構造改革特別区域法等によって法的な担保は確保されている。棚田については、各種の事業展開を通じて担保性が確保されているが、高齢化・過疎化の進行を通じての機能上の担保が低下する危険性をはらんでいると考えられる。

農村景観

田園空間整備事業が実施されている地域においては、事業を通じて整備された公共施設を除けば、民有の資源が大半を占めており、鎮守の森、屋敷林、生垣、伝統的家屋などについては、所有者による維持管理に委ねられている場合が多く、法的な担保性は低いと考えられる。また、これらの資源については、独自の維持管理技術が不可欠な場合も多く、法的な担保が確保されたとしても、資源としての質の担保が困難になることも予想される。ただし、一部自治体では、要綱等により景観保全協定と助成・融資制度が創出されているため、一定の法的な担保は確保されている。

歴史文化資源

遺跡等の文化財

中世以前の古墳や建造物及び建造物遺構等については、概ね文化財としての指定が、国及び府県レベルで進んでおり、これらの緑地資源そのものの法的な担保性は高い。また、調査対象となった事例においては、周辺地域が、都市公園区域に組み込まれたり、自治体独自の緑地保全制度（山形県里山環境保全地域制度）によって地域指定が行われたりするなど、法的な担保が高められている。しかしながら、逆説的に言えば、地域づくりに積極的に活用されていない文化財については、孤立して保護され、その価値が低減される結果となっていることが推察される。

伝統的な街並み

調査対象とした近世以降の建造物・街並みを活用した事例においては、大半が重要伝統的建造物群保存地区指定や自治体独自の景観条例（兵庫県景観条例）によって地区指定が実施され、法的な担保性が高められている。ただし、山形県金山町の事例では、全体では地域づくりの成果をあげていると評価されつつも、「風土・環境になじまない家並みが目立ち始める」といった指摘もある。これらの事例のうち、角館町では、建造物・街並みの保全に加えて、周辺の河川及び里山を緑地保全地区に指定し、周辺の緑地資源の保全が図られている。兵庫県但馬地域の事例では、周囲の里山等を景観形成区域に指定し、全体としての緑地資源の価値を高める方法を採用している。福井県においては、文化財等に指定されていない建造物についても、保存計画の策定をもとに、県の独自事業によって保全・修復する取り組みを実施している。

公共施設

都市公園による多様な資源の担保

道路・河川・都市公園・港湾施設等の公共施設のうち、都市公園そのものが緑地資源の担保方策として活用されている。緑地資源の担保性向上のためには、その持続性が厳しく担保されている都市公園の活用は有効であると考えられる。

(2) 事業・プログラム推進上の特徴

- ・ソフトプログラムが中心の事例の場合、概ね緑地資源は法的な担保度は高い、このため如何に当該地での波及的な活動を実施できるかが地域づくりとしての成否の鍵となる。
- ・文化財指定等に由来する地域づくり事例の場合も、上記と同様に展開力が重要になっているとともに、拠点的な保全から面的な保全へと展開することを通じて、地域全体の魅力の向上につながり、地域経済の活性化等にも貢献できる。
- ・長期構想等の検討プロセスを経て実施に至った地域づくり事例の場合、本格的な活動開始時には、行政と民間・地域社会との組織形成がスムーズに進捗し、多様な取り組みが可能となっている。
- ・民間活動が先行する事例の場合、対象となる緑地資源の価値が社会的に認知されること、また活動内容が研究者等の協力を得て専門性を帯びている場合、公的な担保措置が採られている。

ソフトプログラム中心型

[自然公園法指定地域等での保全緑地資源を活用したソフトプログラム実施事例]

- ・ソフトプログラムを中心としている代表的な事例としては、鯉ヶ沢町での白神山地及び周辺地域の原生的自然と農業資源を組み合わせたエコツーリズム・グリーンツーリズムのプログラムが提供されている。また、上山高原等においては、ブナ林の保全活動や自然観察活動など様々な活動が地域住民・研究者等によって先行的に取り組みされている。

文化財等指定契機型

[文化財指定、都市公園開設、各種百選選定を契機とした地域づくり実施、活性化事例]

- ・山陰海岸では、世界自然遺産の国内候補地のひとつとして地域づくりが再活性化してきており、県境を越えた広域的な取り組みも実施されている。
- ・地域づくりの期間が比較的長い角館町・出石町・萩市の地域づくり事例では、伝統的な景観の保全が体系的な形で進められており、現在ではこれらの事例は、各種百選等に複数選定されるなど、長い取り組みが更なる評価をもたらし、景観資源を観光業の振興に活かしている重要な事例であると評価することができる。

構想検討先行型

[始動段階パートナーシップ型の地域づくり実施事例]

- ・概ね 80 年代後半以降に本格化した、金山町での伝統的景観を活かした地域づくり、安塚町での雪を活かした地域づくりなどでは、それぞれの地域での長期ビジョン等の検討を受けて実施されている事例であり、活動当初より、行政と住民のパートナーシップによる取り組みが展開されている。

生活文化継承型

[農業に根ざした生活文化を継承することを通じて保全されてきた緑地資源を活用している事例]

- ・住民自身が自ら守り続け、形成してきた集落景観を活かした地域づくり事例についても、民間活動先行型の事例といえる。この事例としては、砺波平野・出雲平野における散居景観が挙げられる。これらの事例では、今後生活様式、人材の減少等により景観が損なわれる可能性があるため、自治体による総合的な施策が取り組まれ始めている。

民間活動先行型

[住民、研究者等の緑地資源の保全・活用の活動実績を受けた公的保全・整備事業事例]

- ・上山高原、米子水鳥公園は、地域住民・市民による保全活動、観察・学習活動が取り組まれてきた事例であり、公的な担保方策の後もこれらの活動は、行政とのパートナーシップにより継続的に取り組まれている（予定も含む）。その意味では、今後の地域づくりの展開のあり方に示唆を与えてくれる。

(3) 組織体制の特徴

- ・組織体制の特徴は、地域づくりの開始時期に密接に関連している。
- ・文化財指定を契機に、1970年代もしくは80年代初めに開始された事例の場合、行政主導ではあるが、地元の産業界と連携している事例が多い。
- ・文化財・自然公園等に指定されていない事例で1980年代に開始された取り組みでは、行政計画等に位置づけて実施される事例が多い。
- ・1990年代においては市民活動がその後の地域づくりを先導する事例が見られるようになる。
- ・阪神淡路大震災以降コミュニティーの役割が再認識され、参画型の運営を実践している事例が圧倒的なものとなる。さらに、従前より活動している地域づくりにおいても、様々な形で、参画型組織へと展開している。
- ・今後、地域づくりを新たに展開する際には、構想・計画段階から管理・運営にいたるまでの、パートナーシップによる取り組みが重要である。

行政主導、民間・市民参画型

[行政及び業界団体等のリーダーシップにより地域づくり活動が開始されている事例]

- ・出石町、萩市等では、抽出事例の中で、最も早い段階から地域づくりが積極的に取り組まれてきている。比較的小規模の自治体の場合は、どのような施策展開であれ、地域ぐるみの様相をもつが、これらの自治体等においては、首長をはじめとする各地域のリーダー層の積極的で先見的なビジョンによって、初期段階で成果をあげ、後に多様な関係者を巻き込んで、地域づくりが大きく発展している。
- ・佐渡・但馬での国・県レベルでの鳥類の保護・育成事業は、順調に進み数年後には、100羽前後が繁殖されると言われている。このため、園舎内での保護から、野生での育成に向けた取り組みがスタートしている。地域社会では、この動きに対応するために、周辺の農地・里山等での自然再生の取り組みが地域住民をはじめとする関係者によって担われている。

構想・計画段階からのパートナーシップ型

[地域づくりの構想や計画段階から、市民や民間事業者、業界団体等が参画し、整備・事業実施後に管理運営組織に移行している事例]

- ・町内の歴史的な街並み景観を保全し、地域づくりに活用している金山町の取り組み、雪を活かした地域づくりを進めている安塚町の取り組み等も、地域の長期ビジョンの検討プロセス中から展開してきたことは、市民参画の時代に先行する先駆的な事例として評価される。

民間活動先行型

[先行的に活動する市民等の組織と、保全・整備事業の実施を通じて行政とのパートナーシップによる組織形成が図られる事例]

- ・白神山地や米子水鳥公園での地域づくり事例の場合、いずれもが大規模開発に対する市民の代替案的取り組みとしてスタートしている。これらの活動は、研究者等の専門家によるサポートを受け、活動の科学的意義、社会的な位置づけを徐々に獲得し、社会的な認知を受けた後に、法的に対象地が保全されることにつながっている。

4 . 「緑の国土軸」形成に向けた今後の方向性

これまで日本海沿岸の各地域は、林業や農業、またその他産業も含め、水循環が形成する流域圏をベースとして発展してきたが、今後「緑の国土軸」として 21 世紀における地域づくりを進めていく上では、各流域圏におけるさらなる個性の発揮と 流域圏をつなぐ日本海沿岸地域を象徴する「緑の国土軸」のネットワーク形成が求められる。前者においては地域づくりの課題を整理し、新たな施策展開が必要とされ、後者においては特色ある緑地資源・地域づくりへのさらなる働きかけによるイメージ形成が必要とされることが考えられる。

したがって、まずは、各流域圏ベースとした地域づくりのあり方を検討し、「緑の国土軸」のネットワーク形成に向けたイメージの抽出と検討を行うこととする。

4 - 1 . 地域づくりの課題と方向性

(1) 地域性の発揮 緑地資源の保全方策の課題と方向性

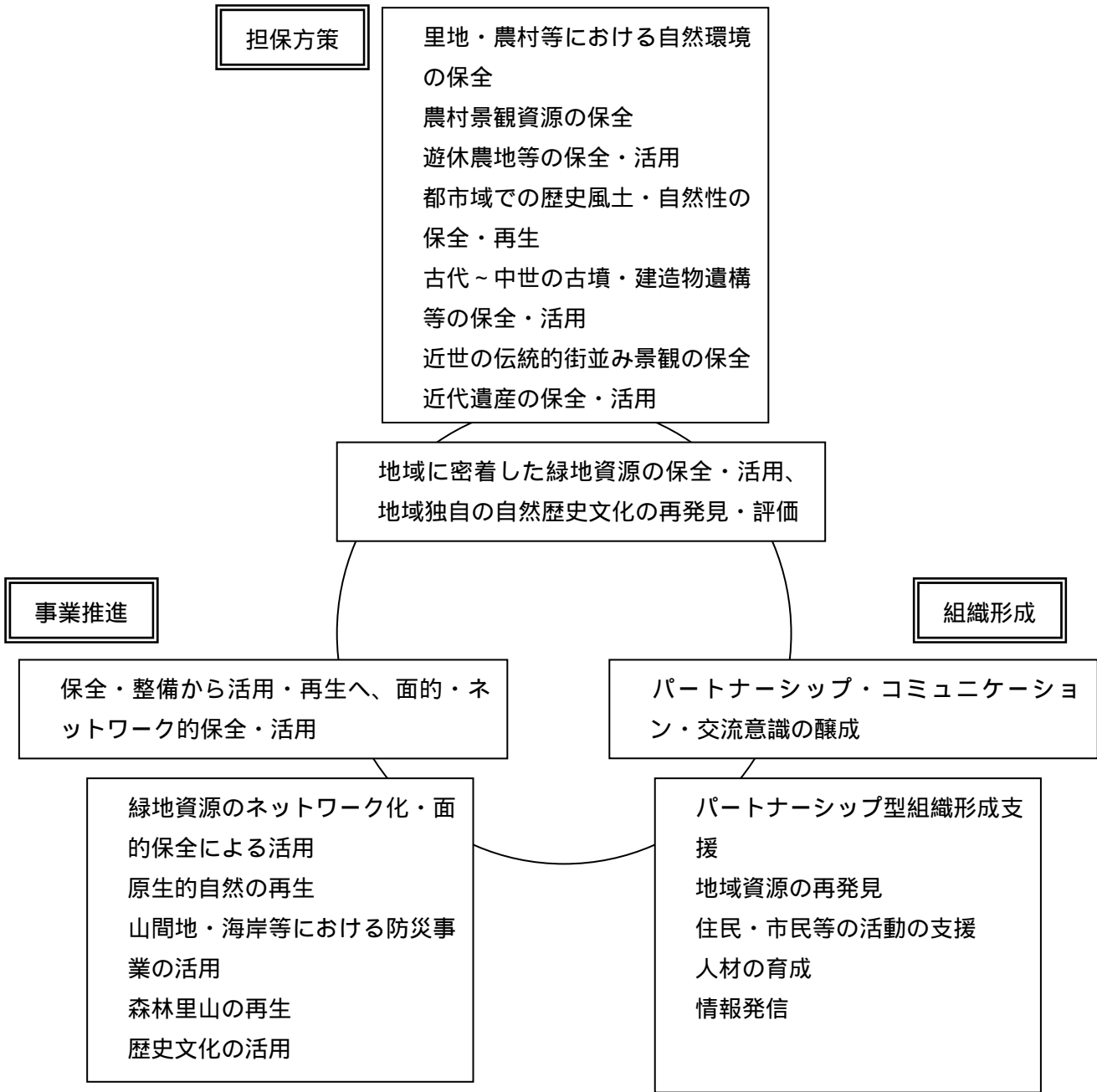
キーワード	地域に密着した緑地資源の保全・活用 地域独自の自然歴史文化の再発見・評価	
テーマ	課題及び要請	方向性
里地・農村等における自然環境の保全	・希少動植物の生息地ともなる農地・里山地域、湖沼・湿地周辺等においては、法的な担保度が低いケースがあり、希少動植物等の保護のための担保方策の検討が必要となる。	・希少動植物等が生息する民有の湖沼・湿地の公的保全の推進 ・市民参画型保全事業の創出による里地・農地等における自然再生・希少動植物保全の推進
農村景観資源の保全	・伝統的家屋、屋敷林、生垣などの民有資源、伝統的な農業関連施設等は、現在も活用されている生きた歴史文化資源であるため、生活様式の変化によって、改修時に失われるケースも多い。	・条例等による保護・保全・活用・開発などの区域区分指定等を通じた農村地域の土地利用コントロール計画の策定による保全の推進 ・景観法景観計画制度の活用による面的保全の推進
遊休農地等の保全・活用	・特に中山間地域での過疎化による担い手不足による遊休農地化、森林管理の低下、また周囲の土地利用変化が生態系や景観のまとまりに影響を及ぼすことが考えられる。	・遊休農地・荒廃林地の緑地的な利活用を可能とする保全利活用計画の策定による当該資源の保全の推進
都市域での歴史風土・自然性の保全・再生	・日本海沿岸地域の都市の多くは、城下町をはじめとして近代以前に形成されてきた都市が大半である。しかしながら、近代化過程において、伝統的景観や地域の気候風土に根ざした自然環境が失われてきたと考えられる。	・地区計画制度、風致地区制度、緑地保全地区制度等の積極的な運用によって、都市の伝統的景観や自然環境を積極的に保全、再生
古代～中世の古墳・建造物遺構等の保全・活用	・古墳や建造物の遺構は、文化財単体での保全に留まり、地域づくりに有効には活用されていないケースがあると考えられる。	・都市公園整備事業に留まらず、地域制緑地・自然公園・景観計画制度等の活用による周辺地域を含めた当該資源の担保の推進
近世の伝統的街並み景観の保全	・伝統的な街並みなどの歴史文化資源については、一部自治体において緑地保全地区や条例が活用され、周辺地域を含めた伝統的街並みの法的担保性が高められており、他地区への波及が望まれる。	・規制と誘導による景観コントロール方策・景観形成の基準となるガイドライン等の条例マニュアルの作成を通じた景観形成の推進 ・景観法における景観計画制度の活用による面的保全の推進
近代遺産の保全・活用	・近代遺産を活用した地域づくりが進展しているが、歴史資源としての社会的な認知を得られず、保全・活用されないケースもある。	・近代遺産の文化財指定・登録に向けた行政・市民等の活動を支援するとともに、近代遺産活用のための事業の創出

(2) 魅力の向上 事業実施上の課題と方向性

キーワード	保護・整備から、再生・保全・活用へ 面的・ネットワーク的活用	
テーマ	課題及び要請	方向性
緑地資源のネットワーク化・面的保全による活用	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な動植物や文化財等は、これまで拠点的に保護され、地域づくりへと波及することは少なかった。地域全体の自然生態系の回復、まとまりのある景観形成、さらには周遊・滞在可能な観光資源としての活用を可能とすることが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全区域に隣接して区域をバッファゾーンとして保全する事業・制度の創出による自然環境の利活用や開発等からの当該地域の保全の推進 ・景観計画制度、地区計画制度等を活用した新しい保全方策と連動した、緑地資源の回復・創出のための事業メニューの検討
原生的自然の再生	<ul style="list-style-type: none"> ・脊梁山脈を中心とした地域に残る原生的な自然は、概ね各種保全制度の中で保護されているが、過剰な利用や逸脱的な利用などで貴重な自然が失われるケースも増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設整備等を中心としたグリーンツーリズム事業の推進とNPO等との協働による自然再生型事業の各地での推進
山間地・海岸等における防災事業の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・急峻な山地、急勾配の河川、長い海岸線、豪雪地帯など、つねに災害の危険性と隣り合わせとなっており、これらの資源の活用を可能とする事業の創出が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策事業等による施設等整備等と連携した、地域づくりへの利活用を可能とする事業の推進
森林里山の再生	<ul style="list-style-type: none"> ・林業の不振、森林と生活の分離などにより、人工林及び広葉樹を中心とする里山の質の低下が継続的に進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林ボランティア事業や森林オーナー制度等の統合的な運用による森林里山再生の各地での推進
歴史文化の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・古代から中世にかけての遺跡等は、我が国の形成に大きく影響を及ぼした日本海沿岸地域が誇るべき資源であるが、全体として十分に認知されていないのではないかと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地の地域づくりをネットワーク化し、各府県の連携による情報発信等の事業の推進

(3) 組織体制の確立における課題と方向性

キーワード	パートナーシップ・コミュニケーション 交流意識の醸成	
テーマ	課題及び要請	方向性
パートナーシップ型組織形成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地資源の保全・活用には、地域住民等の協力は不可欠である。現在、多くの地域では、構想・計画段階からの地域住民等の参画が進展してきている。しかしながら、現実には有効に機能しているケースばかりとは限らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル・優良事例集等の作成による地域住民、NPO・民間事業者との協働、組織形成支援の推進
地域資源の再発見	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる観光地以外の地域では、観光に対する明確な意識がなかったと考えられる。このため、自らの居住する地域の緑地資源の評価、そして緑地資源を活用した新しい取り組みを進めることが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりのための協議会の開催、地域ぐるみでの資源の再発見プログラムの実施等、市民参画を充実するためのマニュアル等の作成
住民・市民等の活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・法的未担保区域等での住民・市民等の自主的自然環境保全活動は、これまでに大きな成果を挙げ、当該資源の公的な保全・活用へと展開しているケースが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民・市民等の活動や当該資源の評価・検証システムの構築による住民・市民等の活動支援や当該資源の公的保全の推進
人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・今後中山間地域、農村地域を中心に、少子高齢化がさらに進展すると考えられる。少子高齢化の進行は、地域の緑地資源の伝統的な管理技術の継承に重大な影響を及ぼすことが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地資源の保全・活用の担い手としての都市住民の人材育成を目的とする交流事業の推進
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地資源を活用した地域づくりの情報は、個別に提供されており、日本海沿岸地域の地域づくりの全体像が十分には伝えられていないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海沿岸地域の特色ある緑地資源の活用事例を、ネットワーク・コンセプト化を通じた広域的な体制のもとでの情報発信の推進 ・都市住民等のニーズ把握するための調査事業の推進



(4) 展開イメージ

	大中河川 - 大平野・盆地型地域	中小河川 - 中平野 - 半島型地域	小河川 - 丘陵型地域	中小河川 小平野・丘陵型地域
コンセプト	大河川が織り成すネットワークを活かした地域づくり	山岳から海へ、そして半島また海へのダイナミックな地域づくり	コンパクトな流域で歴史が重ねられ多様な生き物と共生する地域づくり	なだらかな山地、風そして海流が生み出した地域づくり
原生的自然	・国立公園区域をはじめとした原生的な自然を対象としたエコツーリズムの推進 ・原生林の再生等を通じた緑地資源の質の向上	・立山・白山等の国立公園区域をはじめとした原生的な自然を対象としたエコツーリズムの推進 ・原生林の再生等を通じた緑地資源の質の向上	・丹後半島や上山高原などの原生林・二次林の再生等を通じた緑地資源の質の向上	-
山間地・中山間地・山麓部の災害対応	・雪害対策、治山・治水対策等の事業による緑地資源の整備・再生等による地域づくりのための資源創出の推進 ・山麓部周辺での防災事業によるレクリエーション施設の整備の推進	・雪害対策、治山・治水対策等の事業による緑地資源の整備・再生等による地域づくりのための資源創出の推進 ・山麓部周辺での防災事業によるレクリエーション施設の整備	・雪害対策、治山・治水対策等の事業による緑地資源の整備・再生等による地域づくりのための資源創出の推進	・雪害対策、治山・治水対策等の事業による緑地資源の整備・再生等による地域づくりのための資源創出の推進
森林里山	(豊かな森林資源の多様な活用) ・国産材の積極活用による林業振興 ・森林オーナー制度・ボランティア制度等の活用による森林の再生の推進 ・木材資源としての活用に留まらず、資源リサイクル等の推進	(流域圏レベルでの森林の再生) ・神通川をはじめとした各河川上下流域住民の交流を通じた森林の再生の推進 ・森林オーナー制度・ボランティア制度等の活用による森林の再生	(流域圏レベルでの森林の再生) ・由良川や円山川等における上下流域住民の交流を通じた森林の再生の推進 ・森林オーナー制度・ボランティア制度等の活用による森林の再生	(流域圏レベルでの森林の再生) ・日野川や斐伊川等における上下流域住民の交流を通じた水源の森をはじめとした森林の再生の推進 ・森林オーナー制度・ボランティア制度等の活用による森林の再生
河川・湖沼・ため池	(大河川流域の一体的な利活用) ・岩木川・米代川・雄物川・最上川・阿賀野川・信濃川等の流域全体での特色ある地域づくりの推進 (身近な生活環境における希少動植物の保全・活用) ・里山や里地、湖沼や用水等農業関連施設での希少動植物の保全・活用の推進	(身近な生活環境における希少動植物の保全・活用) ・里山や里地、湖沼や用水等農業関連施設での希少動植物の保全・活用 ・各地にある希少動物に配慮した農業関連施設の再整備の推進	(身近な生活環境における希少動植物の保全・活用) ・豊岡盆地をはじめとした里山や里地、湖沼や用水等農業関連施設での希少動植物の保全・活用	(身近な生活環境における希少動植物の保全・活用) ・里山や里地、湖沼や用水等農業関連施設での希少動植物の保全・活用
農業・農村資源	(多様な農産資源の活用) ・リンゴやモモなどの果樹、ホップ・ベニバナなど様々な工芸作物等の当該地域独自の農産資源の活用の推進 (農村集落の資源の保全と活用) ・飯豊や仙北などの散居集落、茅葺集落や独自の生垣・屋敷林などの民有緑地資源の保全のための制度・事業の創出を通じた活用の推進	(農村集落の資源の保全と活用) ・砺波平野散居村や能登半島などにおける棚田をはじめとする自然環境に対応した田園空間の保全再生 ・自治体独自の砺波平野散居村における保全施策への支援 ・遊休農地の再生や棚田の活用によるグリーンツーリズムの推進 ・地域資産としての農業関連施設の再評価プログラムの実施	(農村集落の資源の保全と活用) ・丹後半島などにおける棚田をはじめとする自然環境に対応した田園空間の保全再生 ・遊休農地の再生や棚田の活用によるグリーンツーリズムの推進	(農村集落の資源の保全と活用) ・出雲平野の築地松集落や中国山地の棚田などの農村集落景観の保全 ・自治体独自の出雲平野築地松集落における保全施策への支援 ・遊休農地の再生や棚田の活用によるグリーンツーリズムの推進
漁業・海岸関連資源	(海岸林の新しい保全・活用) ・海岸林の新たな管理保全方策検討と体験プログラム等での活用の推進	(漁業・海岸景観の活用) ・能登半島をはじめする漁業資源や海岸景観等を活用した海のツーリズムの推進	(漁業・海岸景観の活用) ・若狭湾・香住海岸等を中心とした漁業資源や海岸景観等を活用した海のツーリズムの推進 ・山陰海岸の世界自然遺産候補選定を契機とした広域的な地域づくりへの支援	(漁業・海岸景観の活用) ・隠岐地方や境港などの漁業資源や海岸景観等を活用した海のツーリズムの推進 ・江の川をはじめとする河川・湖沼・ため池等における伝統的漁法の継承とこれらを活用した体験プログラム等での活用の推進
歴史文化資源の活用	(中世歴史資源の活用) ・数多く存在する縄文から中世にかけての歴史文化資源の保全・活用・ネットワーク化等による地域づくりの推進 (歴史的街並み形成の推進) ・秋田県角館町をはじめとした重要伝統的建造物群保存地区等での総合的な歴史文化資源活用の促進 ・山形県金山町をはじめとした自治体独自の街並み景観形成施策への支援による利活用の推進	(中世歴史資源の活用) ・数多く存在する中世から戦国期に由来する歴史文化資源の保全・活用・ネットワーク化等による地域づくりの推進 (歴史的街並み形成の推進) ・世界遺産や重要伝統的建造物群保存地区等の総合的な歴史文化資源活用の促進 ・福井県をはじめとした自治体独自の街並み景観形成施策への支援による利活用の推進	(歴史的街並み形成の推進) ・重要伝統的建造物群保存地区等の総合的な歴史文化資源活用の促進 ・兵庫県をはじめとした自治体独自の街並み景観形成施策への支援による利活用の推進	(古代・中世歴史資源の活用) ・出雲古墳群をはじめとする古代出雲文化圏の遺跡の一体的な保全と活用の推進 (歴史的街並み形成の推進) ・萩市や松江市、津和野町等の城下町や重要伝統的建造物群保存地区等における歴史的街並み景観形成と利活用の推進
自然エネルギー	・環境負荷軽減を目的とした、日本海沿岸地域に吹く風力エネルギーを活用した発電事業等の推進	・環境負荷軽減を目的とした、日本海沿岸地域に吹く風力エネルギーを活用した発電事業等の推進 ・富山平野・加賀平野・福井平野の豊かな用水及び用水施設を活用した小規模水力発電事業等の推進	・環境負荷軽減を目的とした、日本海沿岸地域に吹く風力エネルギーを活用した発電事業等の推進	・環境負荷軽減を目的とした、日本海沿岸地域に吹く風力エネルギーを活用した発電事業等の推進
鉱山資源	・奥羽山地の銅をはじめとした鉱山資源の活用の推進 ・秋田県・新潟県の海岸部における油田・ガス田等のエネルギー資源及び遺産活用の推進	-	-	・石見銀山、たたら製鉄など山間地における鉱山資源活用の推進

4 - 2 . 「緑の国土軸」ネットワーク・コンセプトの抽出

「緑の国土軸」イメージの形成においては、各流域圏での個性的な地域づくりと「緑の国土軸」全体を通しての地域づくりのコンセプトが重なり合うことにより、「緑の国土軸」のイメージは強化されると考えられる。

各流域圏においては、脊梁山脈と海岸線、そして独立峰や隆起海岸等に囲まれ、水循環ネットワークをベースとした緑地資源が形成されている。流域圏をベースとする「緑の圏域」では、圏域内部での都市と農村の交流、自然との共生を通じた個別地域づくりのネットワークが形成され、個性ある地域づくりが展開されることになる。

さらに、「緑の国土軸」の形成においては、各流域圏での地域づくりをつなぎ、さらに日本海沿岸地域を象徴する「緑の国土軸」全体を貫くネットワーク・コンセプトが必要となる。既存の緑地資源と先進的地域づくり事例をベースとして、「緑の国土軸」のネットワーク・コンセプトを以下に抽出し、検討する。

(1) 脊梁山脈における地域づくりの交流による「緑の国土軸」の主骨格となるネットワーク

多様な原生的自然・森林文化の活用

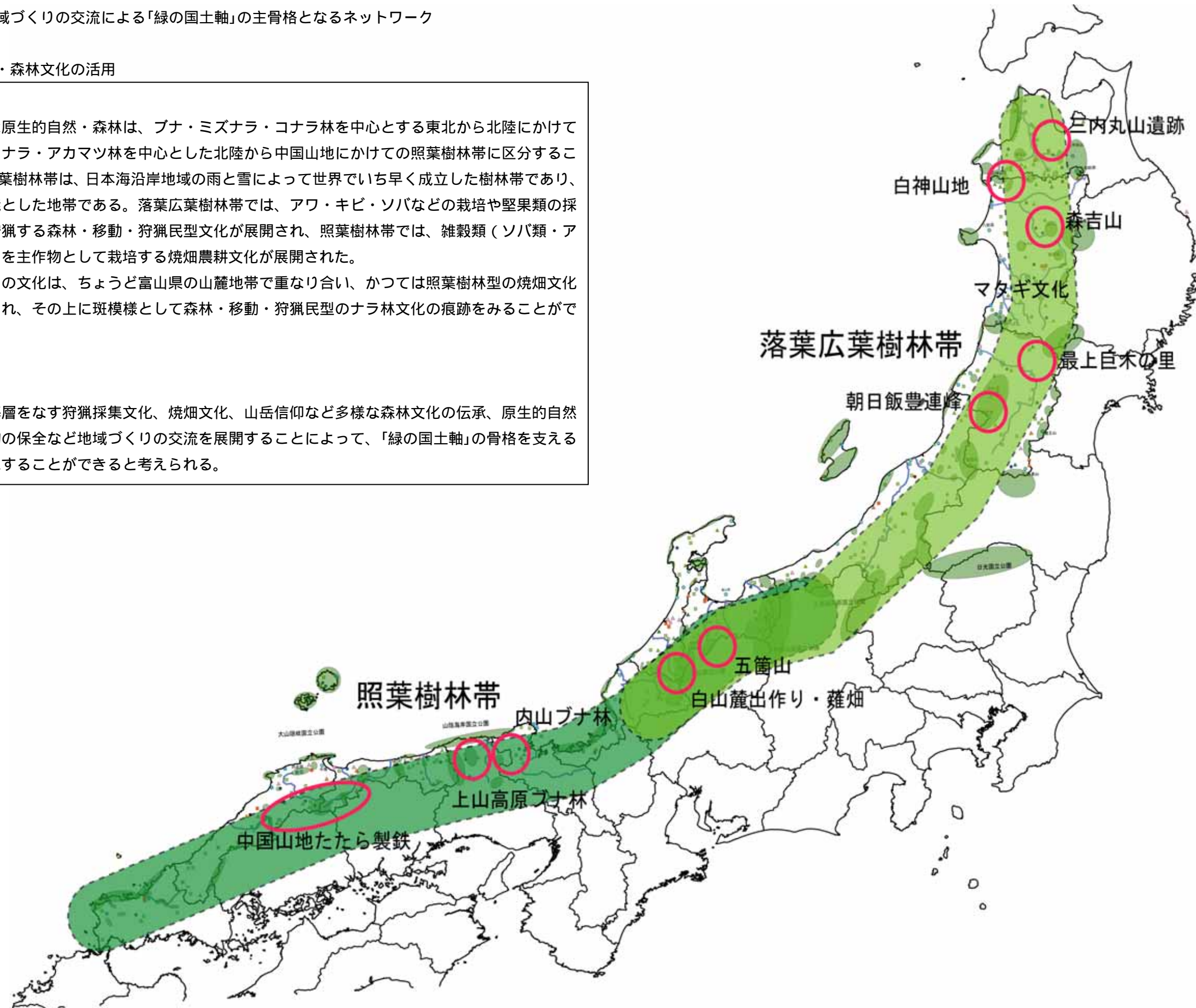
(背景)

脊梁山脈の多様な原生的自然・森林は、ブナ・ミズナラ・コナラ林を中心とする東北から北陸にかけて落葉広葉樹林帯、コナラ・アカマツ林を中心とした北陸から中国山地にかけての照葉樹林帯に区分することができる。落葉広葉樹林帯は、日本海沿岸地域の雨と雪によって世界でいち早く成立した樹林帯であり、縄文人の出現を可能とした地帯である。落葉広葉樹林帯では、アワ・キビ・ソバなどの栽培や堅果類の採集、クマやシカを狩猟する森林・移動・狩猟民型文化が展開され、照葉樹林帯では、雑穀類(ソバ類・アワ・ヒエ・イモ類)を主作物として栽培する焼畑農耕文化が展開された。

さらに、この2つの文化は、ちょうど富山県の山麓地帯で重なり合い、かつては照葉樹林型の焼畑文化の伝統が色濃くみられ、その上に斑模様として森林・移動・狩猟民型のナラ林文化の痕跡をみることができる。

(方向性)

我が国の文明の基層をなす狩猟採集文化、焼畑文化、山岳信仰など多様な森林文化の伝承、原生的自然の再生や希少動植物の保全など地域づくりの交流を展開することによって、「緑の国土軸」の骨格を支えるネットワークを形成できると考えられる。



(2) 我が国の歴史を領導してきた古代から近世にいたる歴史文化資源の交流ネットワーク

古代遺跡や港などの歴史文化資源の活用

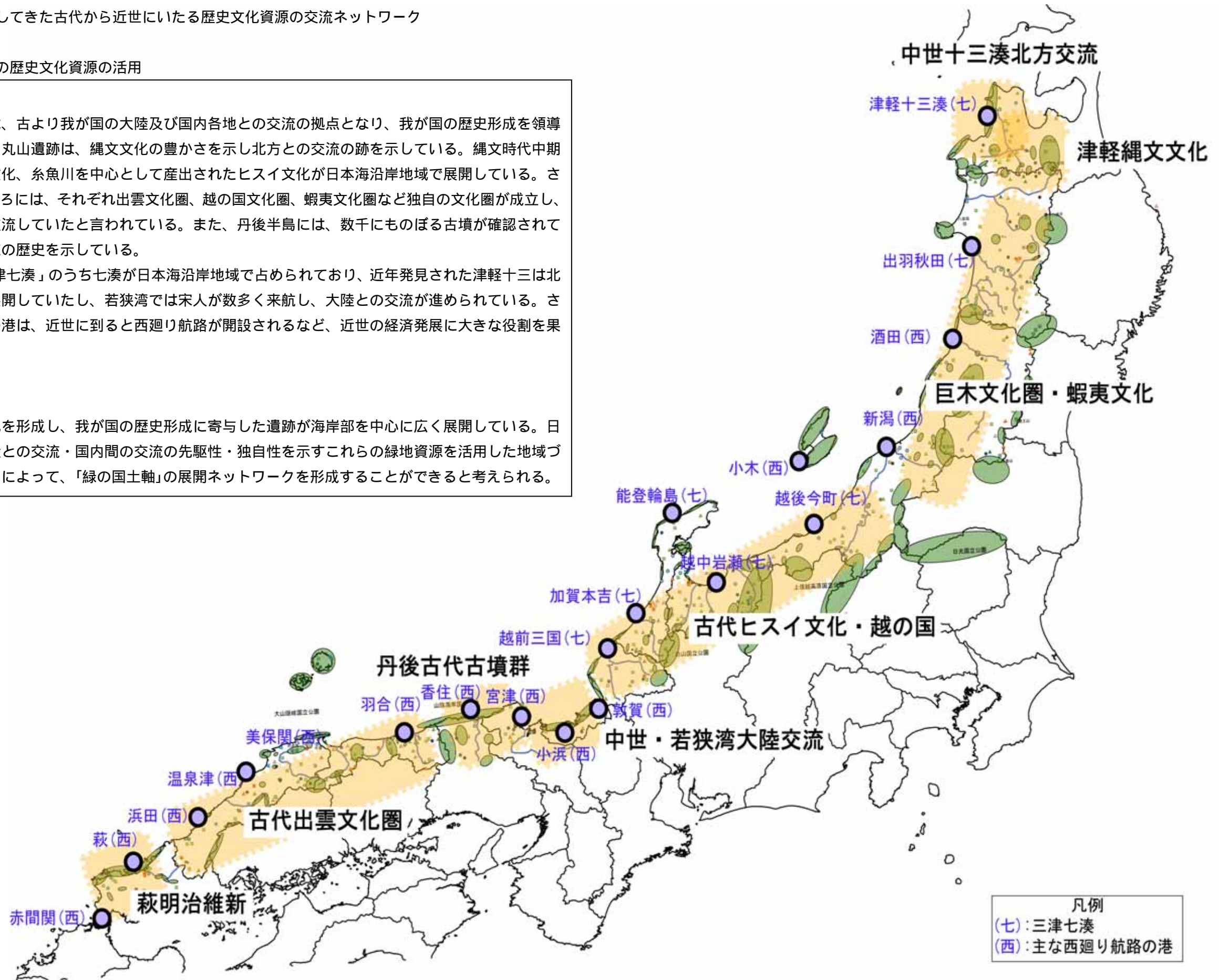
(背景)

日本海沿岸地域は、古より我が国の大陸及び国内各地との交流の拠点となり、我が国の歴史形成を領導してきた。津軽三内丸山遺跡は、縄文文化の豊かさを示し北方との交流の跡を示している。縄文時代中期には、巨大建造物文化、糸魚川を中心として産出されたヒスイ文化が日本海沿岸地域で展開している。さらに、3～4世紀ころには、それぞれ出雲文化圏、越の国文化圏、蝦夷文化圏など独自の文化圏が成立し、互いに海を通じて交流していたと言われている。また、丹後半島には、数千にもものぼる古墳が確認されており、大陸との交流の歴史を示している。

中世以降は、「三津七湊」のうち七湊が日本海沿岸地域で占められており、近年発見された津軽十三は北方との交流を広く展開していたし、若狭湾では宋人が数多く来航し、大陸との交流が進められている。さらに、日本海沿岸の港は、近世に到ると西廻り航路が開設されるなど、近世の経済発展に大きな役割を果たしている。

(方向性)

独自の日本海文化を形成し、我が国の歴史形成に寄与した遺跡が海岸部を中心に広く展開している。日本海沿岸地域の大陸との交流・国内間の交流の先駆性・独自性を示すこれらの緑地資源を活用した地域づくりのネットワークによって、「緑の国土軸」の展開ネットワークを形成できると考えられる。



(3) 変化に富む海岸線が形成する地域づくりネットワーク

各流域・圏域の結節点となる境界のシンボル緑地資源の活用

(背景)

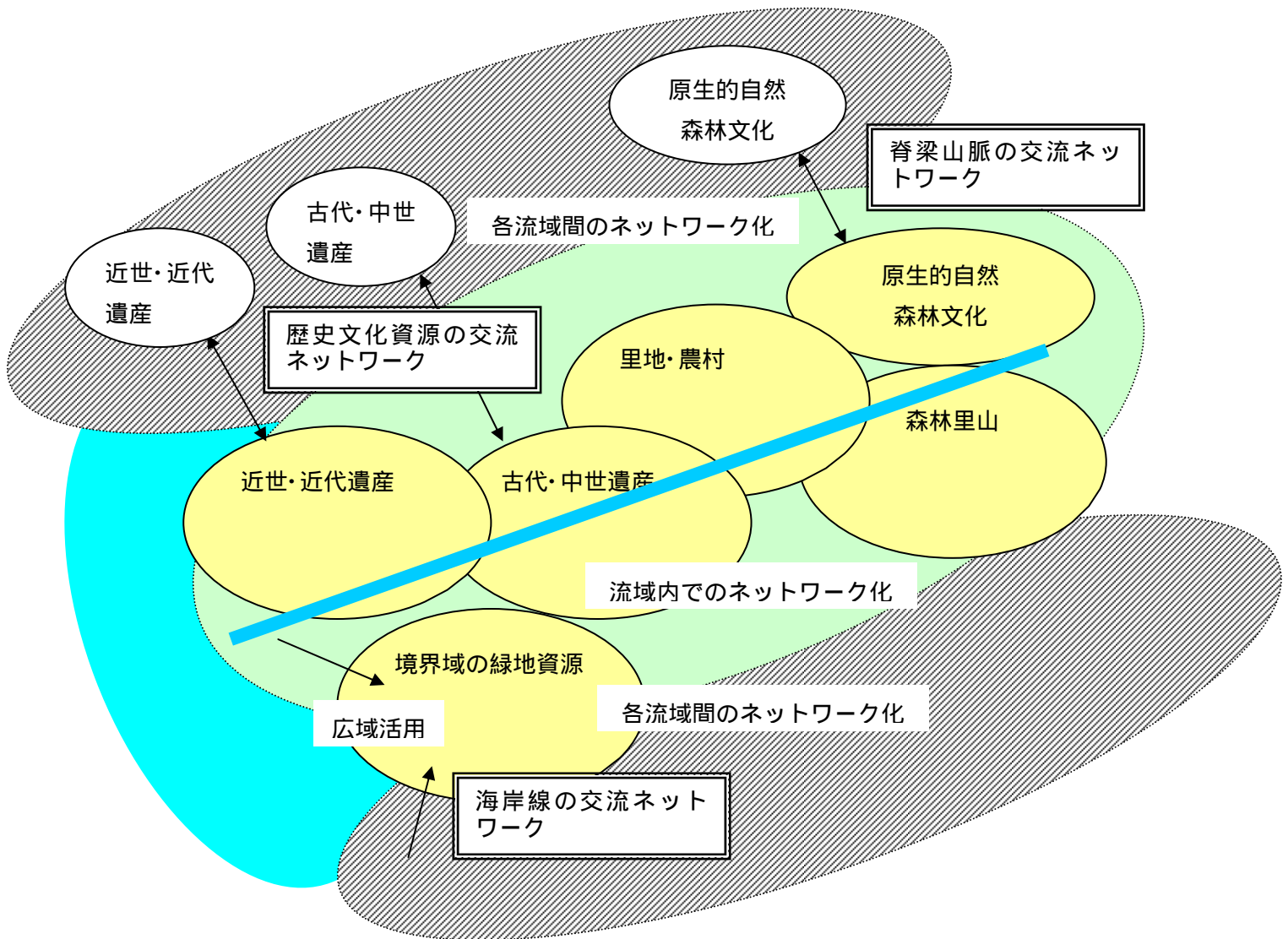
日本海沿岸地域は、上記のように脊梁山脈と海岸線という骨格を有しているが、各流域圏は、白神山地、鳥海山、朝日飯豊連峰、親不知子不知・飛騨山脈、丹後半島、山陰海岸などによって隔てられている。しなかしながら、これらの緑地資源は、景観的にも優れており、あまり人の手が加えられていない豊かな自然も残されている。すでに、一部地域では、これらの資源を活用した地域づくりが進められている。また、境界域を挟む地域には、砂浜と海岸林で構成される隆起海岸、断崖や岩礁が見られる沈降海岸など、多様な海岸線を有している。

(方向性)

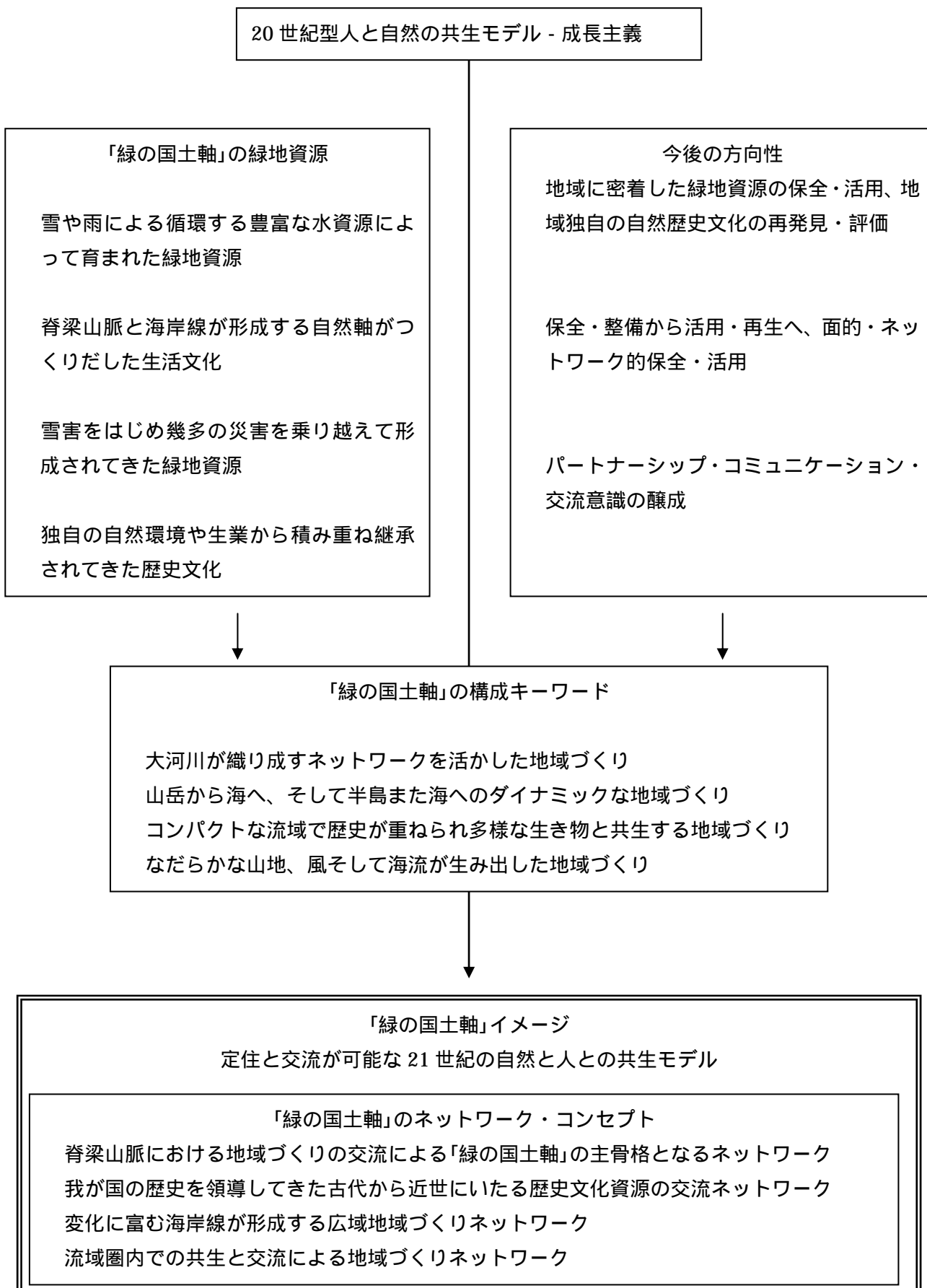
各流域圏の境界に位置する白神山地、鳥海山、朝日飯豊連峰、親不知子不知・飛騨山脈、丹後半島、山陰海岸などにおいて、府県を越えた広域的な地域づくりを実施することにより、各流域をつなぐネットワーク形成が可能となると考えられる。



(4) 流域圏内での共生と交流による地域づくりネットワーク



4 - 3 . 「緑の国土軸」イメージ形成の方向



日本海国土軸 「緑の国土軸」イメージの方向性 定住と交流が可能な21世紀の自然と人との共生モデル

「緑の国土軸」の緑地資源の特徴

- ・雪や雨による循環する豊富な水資源によって育まれた緑地資源
- ・脊梁山脈と海岸線が形成する自然軸が作りだした生活文化
- ・雪害をはじめ幾多の災害を乗り越えて形成されてきた緑地資源
- ・独自の自然環境や生業から積み重ね継承されてきた歴史文化

我が国の黎明期を支えた広葉樹林帯における
森林文化継承・自然再生による
地域づくりのネットワーク

我が国の歴史を領導してきた
古代から近世にいたる
歴史文化資源の交流ネットワーク

変化に富む海岸線が形成する
地域づくりのネットワーク

